

公益社団法人日本地球惑星科学連合

平成 30 年度 定時社員総会

資料

日 時 平成 30 年 5 月 22 日 (火) 15 時 30 分～16 時 30 分
場 所 千葉幕張メッセ国際会議場 コンベンションホール B
(〒261-0023 千葉市美浜区中瀬 2-1)

1. 会長挨拶
2. 定数確認
3. 議長選任

目的事項

報告事項

- (1) 平成 29 年度 活動報告概要
- (2) 平成 29 年度 (公益社団法人第 7 期) 事業報告の件
- (3) 平成 30 年度 (公益社団法人第 8 期) 事業計画書及び収支予算書等の件
- (4) その他

決議事項

- (1) 第 1 号議案 平成 29 年度 (公益社団法人第 7 期) 決算承認の件
- (2) 第 2 号議案 役員 (理事、監事) 選任の件
- (3) 第 3 号議案 日本地球惑星科学連合定款第 16 条 4 項改訂の件

資料

1. 平成 29 年度事業報告 P. 1～35
2. 平成 30 年度事業計画書 P. 37～51
3. 平成 30 年度収支予算書 P. 52～53
4. 平成 29 年度決算報告書 P. 55～
 - (1) 貸借対照表 P. 55
 - (2) 正味財産増減計算書 P. 56～57
 - (3) 正味財産増減計算書内訳表 P. 58～59
 - (4) 財産目録 P. 60
 - (5) 財務諸表に対する注記および附属明細書 P. 61～62
 - (6) 監査報告書 P. 63～65
5.
 - (1) 役員候補者推薦委員会名簿 P. 66
 - (2) 理事候補者選挙実施日程 P. 66
 - (3) 役員候補者推薦委員会議事録 P. 67～68
 - (4) 理事候補者選挙 投票結果 P. 69
 - (5) 役員候補者推薦一覧 P. 70～71
6. 日本地球惑星科学連合定款第 16 条 4 項改訂の件 P. 72

平成 29 年度 事業報告

自 平成 29 年 4 月 1 日

至 平成 30 年 3 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星惑星科学連合

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階

電話：03-6914-2080

Fax：03-6914-2088

平成 29 年度 事 業 報 告

公益社団法人第 7 期（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）

公益社団法人日本地球惑星科学連合が定款に定める事業の概要は以下の通りである。

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催
 - (1) 日本地球惑星科学連合大会（連合大会）の開催 [定款第 5 条（1）]
 - (2) 公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催 [定款第 5 条（1）、（2）]
 - (3) 一般公開講演会の開催 [定款第 5 条（2）]
 - (4) 「スペシャルレクチャー」の開催 [定款第 5 条（2）]
 - (5) 地球惑星科学関連の研究教育機関・学協会・プロジェクト・民間企業の紹介および展示、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示・頒布 [定款第 5 条（7）]

2. 学会誌その他の刊行物の発行と情報発信
 - (1) 学術雑誌等の出版の高度化 [定款第 5 条（2）]
 - (2) 加盟学協会による学術誌等の出版推進 [定款第 5 条（2）]
 - (3) ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行 [定款第 5 条（2）]
 - (4) ウェブ、メールニュースを活用した広報・普及事業 [定款第 5 条（2）]

3. 地球惑星科学コミュニティの意見集約と国および社会一般への諸要請への対応
 - (1) 学協会長会議の開催 [定款第 5 条（3）]
 - (2) 地球惑星科学コミュニティの意見集約 [定款第 5 条（3）（6）]

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進
 - (1) 地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力 [定款第 5 条（4）]
 - (2) 国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援 [定款第 5 条（2）]

5. 地球惑星科学知見の社会還元
 - (1) 複合的自然災害への対応と科学的提言の発信 [定款第 5 条（5）]
 - (2) 複合的自然災害リテラシーの普及 [定款第 5 条（5）]

6. 委員会等活動
 - (1) セクション・サイエンスボード活動 [定款第 5 条（3）（6）]
 - (2) 顕彰制度 [定款第 5 条（1）（2）]
 - (3) 各種委員会活動 [定款第 5 条（1）～（7）]

以下に、個別の事業の状況について述べる。

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

地球惑星科学の一層の発展に寄与することを目的とし、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象に、公開で学術大会を開催し、学術講演、ポスター発表による関連分野の研究発表、情報交換の場を設けることを目的として、日本地球惑星科学連合大会（JpGU-AGU Joint Meeting 2017）（以下、「連合大会」という。）を開催した。連合大会の開催に関連して、講演募集、プログラム編成、ユニオン・パブリックセッションの設定、アウトリーチプログラムの企画等、に関わる事業を行った。

（1）日本地球惑星科学連合 2017 年大会（JpGU-AGU Joint Meeting 2017）の AGU（米国地球物理学連合）との共同開催

会 期：2017 年 5 月 20 日（日）～25 日（木） 6 日間

会 場：幕張メッセ（国際会議場、国際展示場 7 ホール）、東京ベイ幕張ホール

大会委員長：坂本 尚義（北海道大学）

主 催：日本地球惑星科学連合 米国地球物理学連合

後 援：46 団体

協 賛：日本高圧力学会、日本サンゴ礁学会、公益社団法人 日本天文学会、
公益社団法人 日本地震工学会、公益社団法人 土木学会、
公益社団法人 地盤工学会、公益社団法人 日本地すべり学会、公益社団法人 砂防学会

□ 開催セッション数：253

セッションカテゴリー	開催数	うち、国際セッション数
U: ユニオン	6	4
O: パブリック	6	
P: 宇宙惑星科学	23	12
A: 大気水圏科学	53	20
H: 地球人間圏科学	36	10
S: 固体地球科学	74	27
B: 地球生命科学	10	4
G: 教育アウトリーチ	4	2
M: 学際・広領域	41	11
計	253	153

（参考：過去開催セッション数：2016 年 194 件、2015 年 189 件、2014 年 193 件、2013 年 180 件、うち、国際セッション数：2016 年 63 件、2015 年 55 件、2014 年 43 件、2013 年 42 件、2012 年 42 件）

□ 講演投稿数

・ 発表論文数：5645 件（2016 年 4515 件、2015 年 4037 件、2014 年 3806 件、2013 年 3980 件）

口頭発表 2867 件（2016 年 2435 件、2015 年 2545 件、2014 年 2428 件、2013 年 2226 件）

ポスター 2778 件 (2016 年 2080 件, 2015 年 1492 件, 2014 年 1378 件, 2013 年 1754 件)

□ 参加者数

参加者数 : 8450名

(2016年7240名 2015年6689名, 2014年7046名, 2013年6824名)

- ・参加登録者数 : 6645名
一般4221, 小中高教員41, 大学院生1480, シニア159, 学部生700, 高校生44
- ・同伴者数 : 62名
- ・アウトリーチ参加者数 : 1176名
パブリックセッション一般参加者406
高校生セッション関係者323
ジオパーク関係者319
中学生アウトリーチ企画参加者55
高校生アウトリーチ企画参加者73
- ・出展関係者数 : 409名
- ・ゲスト : 9名
- ・プレス : 89名
- ・ボランティア : 48名
- ・スタッフ : 12名

□ 出展関係

一般展示 : 74ブース (2016年68, 2015年65, 2014年80)

※2014年は大学インフォメーションパネルを含む数

大学パネル : 11ブース (2016年10, 2015年11)

書籍・関連商品 : 30ブース (2016年26, 2015年26, 2014年27)

パンフレットスタンド : 9ブース (2016年5, 2015年7, 2014年7)

学協会デスク : 13ブース (2016年11, 2015年10, 2014年10)

Special Exhibition 5ブース

(2) 公開プログラム「高校生によるポスター発表」の開催

連合大会において、高校生を対象とした公開プログラム「高校生によるポスター発表」を開催し、高校生の研究成果発表に対して研究者や一般の参加者が聴講し意見交換を行ない、また優秀発表を表彰した。

開催日 : 2017 年 5 月 21 日 (日)

場 所 : 幕張メッセ国際会議場

主 催 : 公益社団法人日本地球惑星科学連合 広報普及委員会

実施責任者 広報普及員会副委員長 原 辰彦 (国立研究開発法人建築研究所)

発表数：80 件

参加高校：51 校

高校名、池田学園池田中学・高等学校、科学先取りグローバルキャンパス岡山、佐野日本大学高等学校、宮城県多賀城高等学校、群馬県立太田女子高等学校、東京都立多摩科学技術高等学校、大阪府立大手前高等学校定時制の課程/大阪府立春日丘高等学校定時制の課程、茨城県立並木中等教育学校、清真学園高等学校、宮城県利府高等学校、兵庫県立加古川東高等学校、岡山県立津山高等学校、逗子開成高等学校、群馬県立高崎女子高等学校、埼玉県立所沢高等学校、群馬県立前橋女子高等学校、立命館守山高等学校、宮城県仙台二華高等学校、茨城県立日立第一高等学校、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、静岡県立磐田南高等学校、静岡県立韮山高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、岐阜県立岐山高等学校、近畿大学附属和歌山高等学校、福井県立藤島高等学校、長野県屋代高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、海城高等学校、奈良県立青翔高等学校、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎、福島県立磐城高等学校、北海道室蘭栄高等学校、宮城県古川黎明高等学校、兵庫県立西脇高等学校 地学部、不二聖心女子学院高等学校、東京都立両国高等学校、愛知県立一宮高校、市立札幌開成中等教育学校、学校法人 滝学園 滝高等学校、本郷高等学校、東筑紫学園高等学校、札幌日本大学高等学校、山梨県立日川高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、埼玉県立春日部高等学校、宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校、長野県諏訪清陵高等学校、長野県飯山高等学校、関西創価高等学校、新潟県立海洋高等学校、

(発表順)

最優秀賞 (1件)

札幌日本大学高等学校 『宇宙において電磁誘導より重力加速度を測定する方法』

優秀賞 (3件)

岡山県立津山高等学校 『重力可変装置で火星表層の水の流れを解析する』

静岡県立磐田南高等学校 『広戸風と地形の関係性に関する研究』

鳥取県立鳥取東高等学校 『平成 27 年 9 月関東・東北豪雨に伴うスプライトの発生メカニズム』

奨励賞 (7件)

岡山県立津山高等学校 『自作の無定位磁力計による津山海消滅過程についての研究』

埼玉県立所沢高等学校 『霜柱の成長について』

横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 『竜巻の発生条件について』

大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎 『地震の「なみ」からみえてくること』

兵庫県立西脇高等学校 地学部 『交差点の左折をスムーズにおこなえる道路条件の提案』

東京都立両国高等学校 『スナック菓子「ハッピーターン」から再現する地震活動』

東京都立両国高等学校 『マグマ温度と噴火規模の関係の再現実験』

(3) 一般市民向け公開講演会の開催

社会に対する地球惑星科学関連の研究成果の広報・普及活動を通して、地球惑星科学の発展に資するとともに、安全・安心な社会の構築に寄与することを目的に、一般市民向け講演会を開催した。5月の連合大会においてパブリックセッションを開催するとともに、12月には「高校生のための冬休み講座 2017」を開催した。

□ 連合大会パブリックセッション

開催日：2017年5月21日（日）連合大会開催期間中

場 所：幕張メッセ国際会議場

1. 「若手研究者のためのキャリアパスセミナー」
2. 「学校教育における地球惑星科学用語」
3. 「地球・惑星科学トップセミナー」
4. 「キッチン地球科学 一手を動かすことの利点」
5. 「高校生によるポスター発表」
6. 「日本のジオパークーしくじりから見えてくるジオパークの理想像ー」

□ NASA/JAXA ハイパーウォール講演会

開催日：5月20日（土）、21日（日）、24日（水）

場 所：幕張メッセ国際展示場

講 師：Michael Freilich, James Green, David Crisp ほか

□ 日本地球惑星科学連合高校生のための冬休み講座 2017

開催日：12月28日（木）

場 所：東京大学本郷キャンパス 理学部4号館2F 1220教室

講師：玄田英典（東京工業大学 地球生命研究所）「ジャイアントインパクト」

高橋聡（東京大学）「地層はタイムカプセル」

(4) 基調講演

開催日：5月21日（15:30～17:00）

開催場所：幕張メッセ国際会議場 コンベンションホール（A, B）

講演者・講演タイトル：

梶田 隆章（東京大学宇宙線研究所）

Exploring the Universe with neutrinos, gravitational waves and gamma rays

Lucy Jones (California Institute of Technology)

Disaster Resilience in the 21st Century: Improving the communication between science and society

(5) スペシャルレクチャーの開催

学部生や院生を主たる対象として、連合大会会期中の昼食時にスペシャルレクチャーをシリー

ズで開催した。

5月20日(土)

Dr. Shawn McGlynn (Tokyo Institute of Technology)

「Microbial Individuals and their roles in Biogeochemistry」

5月21日(日)

Dr. Peter van-Keken (Carnegie Institution for Science Washington)

「The water cycle in subduction zones」

5月23日(火)

Dr. William Lau (University of Maryland College Park) 「The Asian Aerosol-Monsoon Climate System: A New Paradigm」

5月24日(水) Dr. Ralph Lorenz (Johns Hopkins University Applied Physics Laboratory) 「Exploring Titan : An Earth-Like Moon」

5月25日(木) Dr. Eddie Bernard (Survival Capsule, LLC) 「New Frontier of Tsunami Science - Deep Ocean Observations」

(6) 地球惑星科学関連、教育機関、学協会、プロジェクトの紹介・展示、地球惑星科学関連資料・書籍の展示・頒布

地球惑星科学に関連した教育機関、学協会、ならびに各種プロジェクトについて、関係者のみならず、高校生を含む一般に紹介・広報することを目的に、プロジェクトを推進する諸機関、団体に対して連合大会会場にて展示活動を支援する場を設けた。これらの紹介・展示に関わる募集活動、展示準備作業等を行った。

また毎年、多数の地球惑星科学に関連する書籍、資料が公刊されているが、それらに対するアクセスは必ずしも容易ではないことから、連合大会の折に、これらを多数展示し、頒布するための場を設けて、地球惑星科学関連の研究、教育に携わる人々や、高校生を含む一般の方々に利用促進をはかった。これらの活動に必要な手配や現場での作業を行った。

一般展示 : 74 ブース (2016年68, 2015年65, 2014年80)

※2014年は大学インフォメーションパネルを含む数

大学パネル : 11 ブース (2016年10, 2015年11)

書籍・関連商品 : 30 ブース (2016年26, 2015年26, 2014年27)

パンフレットスタンド : 9 ブース (2016年5, 2015年7, 2014年7)

学協会デスク : 13 ブース (2016年11, 2015年10, 2014年10)

Special Exhibition: 5 ブース

2. 学会誌その他の刊行物の発行と情報発信

(1) 学術雑誌等の出版の高度化

2014年4月に初版が発刊された連合のオープン・アクセス(OA)電子ジャーナル「Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)」の編集・出版事業を通じて国際情報発信力強化に取り組んだ。

日本学術振興会からの科学研究費補助金（研究成果公開促進費）を有効に活用し、PEPS への論文投稿及び引用を促進するための施策を推進した。具体的には、①2013～16 年度に引き続き、JpGU-AGU Joint Meeting 2017 の発表の中からコンビナー推薦の優秀発表への投稿依頼、②2014～16 年度において成果のあった、ジャーナル特別国際セッションにおける旅費の支援と原稿依頼、③一般投稿も受け付ける開放型特集号 SPEPS (SPecial call for Excellent Papers on hot topicS) の推進、④連合の若手研究者の表彰制度である西田賞受賞者への投稿依頼、⑤SNS や HTML メールによる定期的な投稿案内等を実施した。さらに、PEPS が扱うデータ論文の内容を明確にし、“Paper with Full Data Attached” と命名した。

また、新ジャーナルの認知度を高めるために、EGU、IAG-IASPEI2017、AOGS、GSA、AGU 等の国際会議へのブース出展や、連合参加学会が主催する会議に紹介を依頼するなどして、広報活動に努めた。さらに、ジャーナルの活性化を図るための表彰制度を拡大し、アクセス数の多い 3 論文を表彰する Most Accessed Paper 賞に加え、被引用数の多い論文を表彰する Most Cited Paper 賞を設立し 2 論文を表彰した。また、ホームページを充実し、日本語 Abstract や SNS を活用して出版論文を紹介し、引用促進にも取り組んだ。なお、出版開始から 3 年半で 150 本を超える論文を出版し、その約 3 割を Review 論文が占める。

さらに、H28 年度に採録申請を行ったジャーナルの代表的な評価基準の学術文献・引用検索データベースである Clarivate Analytics (旧 Thomson Reuter) の SCIE、及び Elsevier の SCOPUS への登録が受理され、H30 年夏には最初のインパクトファクター (IF) と CiteScore を取得する事が決定した。これを受け、AGU2017 での広報や連合会員・過去の出展ブース来場者向けのメール配信などを通じて IF 取得と投稿依頼をアピールした。

また、関係他誌と連携方針について合意し、H30 年度から開始する新たな科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の公募申請を行った。

(2) 加盟学協会による学術誌等の出版推進

連合ロゴを掲載する連合加盟学協会の国際誌を中心に、JpGU-AGU Joint Meeting 2017 におけるポスター展示、連合のホームページ上での紹介、国内や海外で開催された国際学術大会で連合出展ブースにおいて展示紹介などを行い、地球惑星科学及び関連科学の学術出版物の広報普及支援を実施した。

(3) ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

研究の推進から得られた科学的成果を広く地球惑星科学コミュニティ及び社会一般に広報し、普及させることを目的とするニュースレター誌「JGL」を昨年同様に年間 4 号定期発行した。ニュースレター誌「JGL」の発行日、部数は以下のとおりである。

発行日	No.	発行部数
平成 29 年 5 月 1 日	Vol. 13 No. 2	30,000 部
平成 29 年 8 月 1 日	Vol. 13 No. 3	25,600 部
平成 29 年 11 月 1 日	Vol. 13 No. 4	25,600 部
平成 30 年 2 月 1 日	Vol. 14 No. 1	25,600 部

(4) ウェブ、メールニュースを活用した広報・普及事業

連合ウェブサイトや毎月定期配信を行う連合メールニュース等を通して、地球惑星科学に関連する各種ニュースとともに、国内外の学会、シンポジウム、研究集会、公開イベントの情報や、求人・公募情報等の情報提供を行った。今期は、基幹となるウェブシステムをリニューアルするとともに、毎月、定期的に連合メールニュースを配信した。

発行日	No.	種別
2017年4月10日	No. 292	4月号
2017年4月20日	No. 293	臨時号
2017年5月10日	No. 294	5月号
2017年5月12日	No. 295	臨時号
2017年6月12日	No. 296	6月号
2017年7月10日	No. 297	7月号
2017年8月1日	No. 298	臨時号
2017年8月10日	No. 299	8月号
2017年9月11日	No. 300	9月号
2017年10月10日	No. 301	10月号
2017年11月10日	No. 302	11月号
2017年12月11日	No. 303	12月号
2018年1月10日	No. 304	1月号
2018年2月10日	No. 305	2月号
2018年3月10日	No. 306	3月号

3. 国及び社会一般からの諸要請に対応した地球惑星科学コミュニティにおける意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティの意見を集約するとともに、日本学術会議を含む国及び社会一般への諸要請への対応に関わる要請に対応するために、以下の活動を行なった。

(1) 学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学及び関連分野の研究者を対象に、学協会長会議を年に2回開催して、地球惑星科学コミュニティの意見集約を行うとともに、自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行なった。連合理事会からの諮問、及び学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論し、意見集約と対外的情報発信を行なった。

第16回学協会長会議

期日：2017年5月23日（火）（連合大会会期中）

場所：幕張メッセ国際会議場 101号室

第17回学協会長会議

期日：2017年10月12日（木）

場所：東京大学地震研究所 2号館5階第一会議室

(2) 地球惑星科学コミュニティの意見集約

国及び社会一般からの諸要請に基づき、地球惑星科学コミュニティの意見集約と、コミュニティへの情報伝達を行なった。特に、日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース、関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティへの周知をサポートした。

また、学術会議からの依頼に基づき連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催した。

全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会

日時： 2017年5月21日(日) (連合大会会期中)

場所： 幕張メッセ 国際会議場 106号室

主催： 日本学術会議地球惑星科学委員会、日本地球惑星科学連合

内容： 全国の地球惑星科学系専攻長・学科長が一同に会し、地球惑星科学系大学の発展と大学院教育の在り方についての情報交換。

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

(1) 地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力

我が国の地球惑星科学コミュニティを代表して、地球惑星科学に関する国際的な研究協力、交流の推進を図るために、ヨーロッパの EGU、米国の AGU、アジアの AOGS 等の国際的な学協会と連携協力しながら、地球惑星科学の発展に資する活動を行い、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの支援等を行うための準備を進めた。EGU、AOGS とは、それぞれが主催する学術大会において共通のセッションを設けた。また、海外で開催される関連学会において、ブースを設置し、日本国内で得られた成果に関する広報、資料頒布等の海外学会展示を実施した。

開催日	出展大会名	開催場所
2017年7月30日～8月4日	IAG-IASPEI	神戸
2017年8月6～11日	AOGS 14th Annual Meeting	シンガポール
2017年12月11～15日	AGU 2017 Fall Meeting	ニューオーリンズ (アメリカ合衆国)

(2) 国際科学 (地学・地理) オリンピック活動支援

国際地学/地理オリンピックなどの国際的な活動を通じて、多くの高校生がサイエンスにより深く触れる機会を提供することを目的に、以下の国際科学オリンピック事業に関連する支援と活動を進めた。

1) 国際地学オリンピック活動支援

・8月22日から29日までフランス・コートダジュールにて第11回国際地学オリンピック・フラ

ンス大会が 29 か国・地域、108 名の選手が参加して開催された。日本は金メダル 2、銀メダル 2 の成績で、金メダル獲得による国別順位は台湾と同列の 2 位であった。

- ・ 2017 年 12 月 17 日に第 10 回日本地学オリンピック予選（兼第 12 回国際地学オリンピック・タイ大会一次選抜）が全国の会場で行われた。
- ・ 3 月 11 日から 13 日につくば市で開催された第 10 回日本地学オリンピック本選にて、「日本地球惑星科学連合賞」として、本選で最優秀成績を獲得した女性に賞状ならびに記念品の授与を行い、参加高校生のモチベーションの向上を図り、本活動への支援の強化を行った。

2) 国際地理オリンピック活動支援

- ・ 8 月 2 日～8 日、セルビア・ベオグラードで開催された世界大会に日本代表選手 4 名を派遣した。大会には 41 か国・地域、合計 160 名の高校生が参加し、日本選手は銀メダル 1、銅メダル 1 を獲得した。また、ポスターセッション部門では“Traditional and Tourism× Animation …Harmony and sustainability in Kawagoe ” を出展し、参加 40 か国・地域中、第 1 位に輝いた。

5. 地球惑星科学知見の社会還元

防災学術連携体と共同して防災推進国民大会などで科学的提言を発信し、地球惑星科学が災害の理解と被害の軽減によって社会に貢献する道を示した。

6. セクション・サイエンスボード、及び委員会等活動

(1) サイエンスボード活動

多様な分野を含む地球惑星科学を一定の基準のもとにくくり、各々の分野の更なる発展をめざすサイエンスボードを組織して、個々のサイエンスを長期的な視点から、強力に支援する活動を推進した。

□ 宇宙惑星科学セクション

- ・ 2017 年 5 月 22 日(月) 17 時半～18 時 40 分の間、幕張メッセ国際会議場の 201 号室でサイエンスボードミーティングを開催した。セクションボードメンバーは選挙で選ばれた代議員を含む 28 名であるが、17 名が本ミーティングに会場出席し 1 名がスカイプで参加した
- ・ 連合大会では宇宙惑星科学関連 24 セッションを開催し、その内、半数の 12 セッションを EE（発表言語もプレゼン資料も英語）セッションとして開催した。学生優秀発表賞表彰をおこなった。160 件（当日キャンセルを含む）の審査対象から最終的に 16 件を選んだ。審査の過程では、多くの宇宙惑星科学セクション登録会員に審査員として協力していただいた。
- ・ 2017 年 10 月 6-7 日に、ボードメンバーほか SGEPS 学会長および惑星科学会長らによる合宿形式の会合を湘南国際村センターにて開催した。現地参加者は日帰りも含めて 21 人で、加えてスカイプによる遠隔参加が 2 人あった。

□ 大気水圏科学セクション

1) 連合大会に関する活動

- ・ JpGU-AGU Joint Meeting 2017 において、大気水圏科学セクション関連セッションの招聘講演者に旅費を支給した。
- ・ セクションボードメンバー及び代議員を招集しセクションボードミーティングを開催した。また、学生優秀発表の審査、高校生セッションの審査、一般・報道向けのハイライト論文の審査を行った。
- ・ 2018 年度連合大会に向けてセッション提案の呼びかけを行い、プログラム案の作成を行った。
- ・ 2018 年度連合大会ユニオンセッション「地球惑星科学の進むべき道 8 : 地球惑星科学分野における将来計画とロードマップ」に関連して、本セクションの夢ロードマップの改訂作業に着手した。

2) 大気水圏科学分野のジャーナル出版に関する活動

- ・ 水文分野 5 学会合同のレター誌「Hydrological Research Letters」の出版に関わる協議会に参加し、セクション費用の一部を負担した（東京、2017 年 12 月 28 日）。

3) 地球観測の将来計画に関する提言

- ・ 今後の宇宙開発体制のあり方に関する「タスクフォース会合・リモートセンシング分科会 (TF)」コミュニティの地球科学研究高度化ワーキンググループの活動に参加した。

4) アウトリーチ活動

- ・ 一般向けの平易なセクション紹介文を連合ウェブサイトに掲載した。また、セクションを詳しく説明するウェブページを作成した。

□ 地球人間圏科学セクション

- ・ セクション活動の活性化にむけ新規に若手研究者をセクションボードに迎え充実させた。
- ・ JpGU-AGU Joint Meeting 2017 においてセクションボードミーティングを開催し学生優秀発表賞の選考に関わる議論を行い、表彰活動を行った。
- ・ JpGU-AGU Joint Meeting 2017 において AGU とのジョイントセッションを行い JpGU と AGU の協働につなげた。
- ・ JpGU-AGU Joint Meeting 2017 開催に向けセッション提案を呼びかけ、国際セッションの提案につなげた。
- ・ JpGU-AGU Joint Meeting 2017 のプログラム副委員長として堀和明氏を選出し、プログラム委員には七山太氏、杉戸信行氏を選出し、その任務にあたっていた。
- ・ 地球人間圏科学セクションのボードメンバーのミーティング 2017 年 12 月末に開催し、翌年度の活動方針を話し合う機会を設ける。
- ・ 地球人間圏科学セクションに関わる若手研究者の学会活動を支援するためにメール審議を行い、INQUA（韓国大会）への助成を行った。
- ・ 地球環境問題、大規模災害、フューチャー・アースに対応するシンポジウムとして日本学会会議学術フォーラム「災害軽減と持続的社会の形成に向けた社会と科学の協働・協創」ほか

の開催を支援し、日本学術会議地球惑星科学委員会活動との連携(シンポジウム、ロードマップ、大型研究計画など)をはかった。

- ・ジオ・ユニオン活動 (IGU 大会、 ICA 大会、 INQUA 大会、 IAG 大会など) との連携を進めた。

□ 固体地球科学セクション

- ・ 連合大会時にセクションボードメンバーを招集しセクションボード会合を開催した(2017年5月25日)。
- ・ セクションボード会合では、フォーカスグループ、国際会議への支援、国際セッションへの対応、2018年以降のジョイントセッション、学生発表賞やハイライト論文選定への対応、セクションの褒賞制度などに関して意見交換を行った。
- ・ JpGU-AGU Joint Meeting 2017において、固体地球科学セクション(全75セッション)では49件の国際セッションを開催した。
- ・ 2018年に連合が共催(予定)・固体地球科学セクションが財政支援(予定)する国際シンポジウムの打合せおよび宣伝と中国との連携を模索するためにの情報収集のために、中国地球科学連合総会へ代表者を派遣した。
- ・ セクションの内部構造として、新たにハードロック掘削科学フォーカスグループを創設した。
- ・ 英語版を含めて固体地球科学セクションのホームページを充実させるにあたり、連合全体ホームページの更新と歩調を合わせるために事務局と協議を行った。
- ・ 前年度に引き続いて学生発表賞の選考と表彰: 選考委員2名体制で選考方法を改善した。
- ・ 新たに参加したボードメンバーをホームページに加えるなど、ホームページを定期的に更新し充実させた。
- ・ 2017年のジョイント・ミーティングにむけて、固体地球科学セクションのプログラム委員を拡充した。

□ 地球生命科学セクション

- ・ 連合大会でハイライト論文を選考した。
- ・ 連合大会の地球生命科学関連セッションで学生賞の審査を行った。
- ・ 連合大会期間中にセクションボードのビジネスミーティングを開いた。
- ・ 連合大会の活性化と若手支援を骨子とする2018年事業計画の策定を行った。
- ・ 2017年8月13日から8月18日にフランス・パリで開催されたGoldschmidt2017に参加する1名の若手研究者に旅費の支援を行った(国際派遣事業=公募による選考)。
- ・ 2017年9月17日から9月22日にイタリア・フィレンツェで開催された28th International Meeting on Organic Geochemistry(IMOG2017)に口頭発表する各1名の若手研究者に旅費の支援を行った(国際派遣事業=公募による選考)。
- ・ 来年度の連合大会に向けて地球生命科学関連セッションの提案を呼びかけた。
- ・ 「夢ロードマップ」の改訂作業を開始した。

(2) 顕彰制度関連活動

- 1) 連合大会における「学生優秀発表」の表彰

学生優秀発表賞は前回に引き続き、参加セッションが全セッションに及んだ。また、学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、制度の安定的な運営を目的に、審査のためのWEBシステムの刷新を行った。

2) 連合フェローの顕彰

2017年度フェロー15名の顕彰を行った。また、2018年度フェロー候補の募集と審査を行った。

3) 地球惑星科学振興西田賞授賞式の表彰

第2回地球惑星科学振興西田賞受賞者の表彰を2017年連合大会において行った。

4) 日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）の審査

第46回日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）候補者の募集と審査を行った。

(3) 各種委員会活動

理事会の取り決めにより委員会を組織して、各種事業を進めた。

□ 総務委員会

- ・定款および法人運営規則を改正し、団体会員を法人法上の社員から外すとともに、代議員定数を100名から150名に変更した。
- ・事務局員の福利厚生として大会特別手当規則を制定するとともに、就業に関わる規則（規則就業規則、退職金規則、賃金規則等）の制定に向けた準備を進めた。
- ・総会資料と理事会開催資料を事務局との協働により作成した。
- ・共催、協賛、後援等の外部折衝と理事会への照会を行った。
- ・事務局の運営に関して監修し、助言を行った。

□ 財務委員会

- ・アメリカ地球物理連合と初めて共同開催した平成29年度連合大会を財務面から支援した。
- ・2017年12月26日（火）14:30～17:30に日本地球惑星科学連合事務局にて財務委員会を開催した。
- ・平成29年度決算書、平成30年度予算書を策定した。

□ 広報普及委員会

- ・連合2017年大会のハイライト講演をセレクトしてプレスリリースを行った。
- ・連合2017年大会の日本語プログラムを編集しJGL春号として発行した。
- ・連合2017年大会における記者会見用ブースを新たに設置した。
- ・連合2017年大会でパブリックセッション「高校生によるポスター発表」及び「地球・惑星科学トップセミナー」を主催した。
- ・「地球・惑星科学トップセミナー」の映像を記録して動画配信を行った。
- ・中高生のための「NASA-JAXA ハイパーウォール講演会」を行った。
- ・広報普及委員会にパブリックセッション小委員会を設置し、2018年大会で開催するパブリックセッションの採択に向けた検討を行った。

- ・2017年12月28日（木）東京大学本郷キャンパス理学部4号館にて「日本地球惑星科学連合高校生のための冬休み講座 2017」を開催した。映像を記録して動画配信を行った。
- ・ニュースレター誌 JGL を年間4号発行し、会員のほか加盟学協会、高等学校、関連企業等に配布のほか、pdf版を連合 Web で公開した。
- ・ニュースレター誌 JGL の特集ページとして2016年度フェロー受賞者の記念文集を掲載し、pdf版を連合 Web で公開した。
- ・メールニュース定期号を年間12件、臨時号を年間3件発信した。
- ・連合ウェブで様々なお知らせやニュース等の情報発信を行った。
- ・その他、連合の活動及び地球惑星科学分野での最新トピックスや日本学術会議の活動をコミュニティ内外に迅速に伝えるための活動を行った。

□ 環境災害対応委員会

- ・JpGU-AGU Joint Meeting 2017において、ユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」を開催した。
- ・2017年11月26日（日）第2回防災推進国民大会にて発表を行った。
発表者：山里平（気象研究所）
発表タイトル：火山災害における衛星観測の活用
- ・2018年1月15日広島大学東京オフィスにて委員会を開催した。

□ ダイバーシティ推進委員会

- ・キャリアパスアンケートについては、昨年度から引き続き英語版のアンケートも用意して実施した（1月～5月）。解析結果については、ウェブサイト等で結果を報告した（通年）。
- ・2017連合大会でパブリックセッション「若手研究者のためのキャリアパスセミナー」を開催した。「科研費採択に向けた効果的なアプローチ」の著者の塩満典子先生（理研・仁科加速器研究センター・研究推進室長）による外部研究資金の獲得法、エルゼビアのジャーナル Geomorphology のチーフエディター小口高先生（東京大学空間情報科学研究センター長）のアクセプトされる論文の書き方、「伝わるデザインの基本」の著者の高橋佑磨先生（千葉大学・助教）による伝わるプレゼン資料の作成方法について講演いただいた。
- ・2017連合大会でキャリアパス支援ブースの運営を行った。新聞社、出版社、科学館関係者などを含む数人がブースの相談員として担当した。
- ・2017連合大会で保育室の運営を行った。
- ・5月25日（木）～26日（金）に開催された Gender Summit 10 へ参加し、ポスター発表で JpGU の宣伝などを行なった。
- ・男女共同参画学協会連絡会に出席するとともに若手研究者育成 WG 活動を行った（通年）。大規模アンケートの若手に関するチャプターのデータの解析を担当した。10月14日（土）に開催された同連絡会主催のシンポジウムに参加し、ポスター発表による連合の宣伝を行った。
- ・女子中高生夏の学校に参加（8月5日（土）～7日（月））し、実験実習、ポスター展示、進路相談、国際交流などの多様な企画を協賛した。
- ・キャリア関係シンポジウムは、日本地熱若手ネットワーク専門部会と共同で2017年10月18

日（水）に函館で開催した。「地熱・地中熱のキャリアパスー 若手の今ー」というタイトルで若手研究者 2 名にご講演いただいた。2 回目の地方開催であったものの 40 名弱の参加があった。

- ・委員会ウェブを整備した。
- ・ハラスメントについての議論を行った。今後、JpGU としてこの課題にどう取り組むことができるか検討するための事前アンケート調査を実施した（2018 年 5 月末まで）。
- ・ダイバーシティ推進委員会の face to face 会議を 2 月に開催した。

□ 教育検討委員会

（1）学校教育および社会教育に関わる諸活動

- ・2017 年 4 月 15 日（土） 第 72 回教育課程小委員会開催（私立海城高校）
JpGU-AGU Joint Meeting 2017 パブリックセッションの準備、地学教育研究集会（11 月・東大地震研）の講演者人選、新「地学基礎」提言文の提出時期について検討した。
- ・2017 年 5 月 21 日（日）「学校教育における地球惑星科用語」というテーマで JpGU-AGU Joint Meeting2017 パブリックセッションを開催した。教科間・科目間で教科書間の用語や解説内容などが異なっている事例をもとに議論した。
- ・2017 年 5 月 21 日（日）教育検討委員会総会（幕張メッセ）を開催した。
- ・2017 年 7 月 1 日（土）第 73 回教育課程小委員会（私立海城高校）を開催した。
- ・2017 年 7 月 5 日（水）次期高校学習指導要領に向けた高等学校「地学基礎」の提言を文科省に提出した。
- ・2017 年 11 月 12 日（日）第 74 回教育課程小委員会を開催（学会ビル地下会議室）を開催した。
- ・2018 年 2 月 25 日（日） 第 75 回教育課程小委員会を開催（私立海城高校）した。
- ・2018 年 3 月 14 日（水）次期高等学校学習指導要領の「地学基礎」について、教育検討委員会としてパブリックコメントを提出した。

（2）国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

国際地学/地理オリンピックなどの国際的な活動を通じて、多くの高校生がサイエンスにより深く触れる機会を提供することを目的に、以下の国際科学オリンピック事業に関連する支援と活動を進めた。

1) 国際地学オリンピック活動支援

- ・8 月 22 日から 29 日までフランス・コートダジュールにて第 11 回国際地学オリンピック・フランス大会が 29 か国・地域、108 名の選手が参加して開催された。日本は金メダル 2、銀メダル 2 の成績で、金メダル獲得による国別順位は台湾と同列の 2 位であった。
- ・2017 年 12 月 17 日に第 10 回日本地学オリンピック予選（兼第 12 回国際地学オリンピック・タイ大会一次選抜）が全国の会場で行われた。
- ・3 月 11 日から 13 日につくば市で開催された第 10 回日本地学オリンピック本選にて、「日本地球惑星科学連合賞」として、本選で最優秀成績を獲得した女性に賞状ならびに記念品

の授与を行い、参加高校生のモチベーションの向上に向けた、活動支援強化を行った。

2) 国際地理オリンピック活動支援

- ・8月2日～8日、セルビア・ベオグラードで開催された世界大会に日本代表選手4名を派遣した。大会には41か国・地域、合計160名の高校生が参加し、日本選手は銀メダル1、銅メダル1を獲得した。また、ポスターセッション部門では“Traditional and Tourism × Animation …Harmony and sustainability in Kawagoe ”を出展し、参加40か国・地域中、第1位であった。

(3) 教員免許状更新講習の開催

文部科学省より教員免許状更新講習の認定を受け、教員免許更新講習を実施した。

講習概要

開催月日	開催地	講習名	受講者数	定員
7月28日	大阪府高槻市 高槻市生涯学習センター	総合的防災教育	8名	30人
8月06日	つくば市 防災科学技術研究所	学校区での自然災害とその対策を考える	3名	20人
8月22 ～23日	千葉県 館山市菜の花ホール他	石碑や海岸の地形、露頭から学ぶ、関東地方を襲った大地震とプレートテクトニクスおよび地磁気逆転の証拠	16名 (うち聴講参加3名)	30人
8月29日	東京大学(本郷)	数値シミュレーションで学ぶ津波の基礎	3名	15人

□ 情報システム委員会

- ・昨年度に連合が正式な登録機関となった ORCID の特色や意義を会員に伝えるために、ニュースレター JGL に記事を連載した (Vol. 13, No. 1, 2, 4)。
- ・連合大会 (JpGU-AGU Joint Meeting 2017) における国際セッション Challenges of Open Science: Research Data Sharing, Infrastructure, and Scientific Communications を企画・共催した。この際には AGU の理事を招へいし、米国における状況などについて情報交換を行った。
- ・AGU Fall Meeting 2017 (米国ニューオーリンズ) に参加し、AGU 地球宇宙科学情報学セッションの執行委員会および JpGU・AGU 執行部合同会合に出席し、情報交換を行った。
- ・国内学協会 ORCID コンソーシアム立ち上げシンポジウム(2017年9月7日、東京)に参加し、講演を行った。
- ・JpGU-AGU Joint Meeting 2017 に向けて改修されたオンラインシステムを活用して、円滑な大会運営を支援した。また次年度以降に向けてさらなる改良作業を行った。

□ ジャーナル企画経営委員会

- ・2017年7月11日：メール会議にてジャーナル企画経営委員会を開催、PEPSの活動状況の報告、H28年度会計及びH29年度実行計画、EPSとの共同体制について手審議した。
- ・2017年11月29日：ジャーナル企画経営委員会のタスクフォースとして地震学会論文賞へのPEPS推薦論文選考委員5名を任命し、12月20日選考会議を開催した。
- ・2017年7月28日、12月27日：EPS誌運営委員会にジャーナル企画経営委員会（EPSオブザーバー）2名が参加し、共同出版に向けての情報収集・意見交換を行った。

□ ジャーナル編集委員会

- ・2017年4月12日：浜松町WTCコンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、問題点、データアーカイバー、連合大会の配布資料等について検討した。
- ・2017年5月22日：TKPガーデンシティ幕張にて編集委員会議を開催（27名参加、内7名外国人編集委員）、現状報告、Wos採録申請への取組の紹介、Data Paperについての議論、Springerによる2016年レポートの報告と今後の取組について紹介があった。
- ・2017年7月7日：北海道大学ファカルティハウスにおいて編集長会議を開催、5月22日の編集委員会にて議論されたData paperの反対意見と問題点を確認し対応を検討した。先行しているEcological Research Data paperの立上げ担当者に問題点や状況の説明を受け、PEPSの扱うData paperの方向性を明確にした。
- ・2017年7月14日：全体メール会議にてPEPSの扱うData Paperの方向性について議論し、8月11日に総括を行った。
- ・2017年9月5日：浜松町WTCコンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、Data paperに関するメール会議の総括に従い、他誌のData paperとの差別化を明確にするため“**Paper with full data attached**”と命名し、Webに記載するAms&ScopeやCriteria、投稿システムの査読者向けページの見直し等について検討した。また、会議のabstract引用について、acceptされた会議abstractの引用を認める事を承認し、連合大会のabstractにもDOIを付与するよう、理事会に提案する事を決定した。
- ・2017年9月22日：全体メール会議にて、9月5日編集長会議決定事項とWeb上の更新について報告し、了承を得た。
- ・2017年11月15日：浜松町WTCコンファレンスセンターにおいて編集長会議を開催、査読者1名の際の対応、出版社ミスによる著者への対応とErratum発行について確認した。また、Scopusへの採録決定の報告、H30年度科研費申請についての報告があった。

□ 大会運営委員会

- ・JpGU-AGU Joint Meeting 2017を開催し、その準備及び運営にあたった。
- ・2017年1月10日より2月19日まで、JpGU-AGU Joint Meeting 2017の投稿を受け付けた。
- ・コンビーナとプログラム委員会の採択を踏まえ、3月14日に発表プログラムを公開した。
- ・その他、AGU側と連携し、大会投稿・参加募集の周知、各種企画立案と準備を行った。
- ・2018年連合大会の開催準備を行った。

- ・2017年9月1日より10月12日まで開催セッションの提案を受け付けた。
- ・2017年11月14日学会センタービル会議室にてプログラム委員会を開催した。
- ・2017年12月27日大会運営委員会を開催した。

□ グローバル戦略委員会

- ・連合大会にてAGUとのジョイントセッションの活性化を推進した。
- ・同大会でInternational Mixer Luncheonを開催した。連携海外組織とミーティングを開催し連携力強化を図った。
- ・IAG-IASPEI・AOGS・AGU等連携海外組織の大会にブース出展をし、連合、ジャーナル、加盟学協会の活動紹介を行った。
- ・7月14日、7月21日、11月13日、2018年3月5日グローバル戦略委員会開催を開催した。
- ・アジア太平洋作業部会を発足させた。
- ・加盟学協会に協力を仰ぎ、アジア太平洋作業部会により「アジアにおける学協会との協力関係に関するアンケート」を行った。

□ フェロー審査委員会

- ・2017年12月31日（土）を締切として、2018年度日本地球惑星科学連合フェローの候補者募集を行った。
- ・2018年1月30日（月）学会センタービルにて委員会を開催し、フェロー候補者の審査を行った。

□ 地球惑星科学振興西田賞審査委員会

- ・2017年連合大会において、第2回受賞者の表彰を行った。

II. 処務の状況

1. 役員等に関する事項

(1) 公益社団法人第7期会長、理事、監事

役 職	氏 名	所 属
会 長	川幡 穂高	東京大学
副 会 長	田近 英一	東京大学
〃	中村 正人	宇宙航空開発機構
〃	古村 孝志	東京大学
理 事	井出 哲	東京大学
〃	小口 高	東京大学
〃	小口 千明	埼玉大学
〃	奥村 晃史	広島大学
〃	北 和之	茨城大学
〃	木村 学	東京海洋大学
〃	倉本 圭	北海道大学
〃	瀧上 豊	関東学園大学
〃	津田 敏隆	京都大学
〃	中村 昭子	神戸大学
〃	西 弘嗣	東北大学
〃	浜野 洋三	海洋研究開発機構
〃	原田 尚美	海洋研究開発機構
〃	日比谷 紀之	東京大学
〃	道林 克禎	静岡大学
監 事	北里 洋	東京海洋大学
〃	鈴木 善和	プラタナス法律事務所
〃	氷見山 幸夫	北海道教育大学名誉教授

退任 平成 29 年 8 月 24 日

理 事	ウォリス サイモン	名古屋大学
-----	-----------	-------

(2) 公益社団法人第7期（平成29年度）社員

定款第7条（法人の構成員）第2項により、正会員の中から選出された代議員及び団体会員をもって、公益社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員とする。

■ 代議員： 100名

定款第11条（代議員の定数、選出方法、任期及び欠員措置）第2項により、代議員の定数は、80名以上200名以内で社員総会において別に定める数とする。

□ 宇宙惑星科学選出 16名

笠羽 康正	（ 東 北 大 学 ）	草野 完也	（ 名 古 屋 大 学 ）
倉本 圭	（ 北 海 道 大 学 ）	小久保 英一郎	（ 国 立 天 文 台 ）
佐々木 晶	（ 大 阪 大 学 ）	関 華奈子	（ 名 古 屋 大 学 ）
高橋 幸弘	（ 北 海 道 大 学 ）	田近 英一	（ 東 京 大 学 ）
橘 省吾	（ 北 海 道 大 学 ）	長妻 努	（ 情 報 通 信 研 究 機 構 ）
中村 昭子	（ 神 戸 大 学 ）	中村 卓司	（ 国 立 極 地 研 究 所 ）
中村 正人	（ 宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 ）	能勢 正仁	（ 京 都 大 学 ）
吉川 顕正	（ 九 州 大 学 ）	渡邊 誠一郎	（ 名 古 屋 大 学 ）

□ 大気水圏科学選出 19名

伊藤 進一	(東 京 大 学)	沖 理子	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
蒲生 俊敬	(東 京 大 学)	川合 義美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
河宮 未知生	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	北 和之	(茨 城 大 学 理 学 部)
近藤 豊	(国 立 極 地 研 究 所)	佐藤 薫	(東 京 大 学)
佐藤 正樹	(東 京 大 学)	津田 敏隆	(京 都 大 学)
坪木 和久	(名 古 屋 大 学)	中村 尚	(東 京 大 学)
花輪 公雄	(東 北 大 学)	早坂 忠裕	(東 北 大 学)
原田 尚美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	東塚 知己	(東 京 大 学)
日比谷 紀之	(東 京 大 学)	安成 哲平	(北 海 道 大 学)
吉田 尚弘	(東 京 工 業 大 学)		

□ 地球人間圏科学選出 14名

秋本 弘章	(獨 協 大 学)	小口 高	(東 京 大 学)
小口 千明	(埼 玉 大 学)	奥村 晃史	(広 島 大 学)
近藤 昭彦	(千 葉 大 学)	佐竹 健治	(東 京 大 学)
島津 弘	(立 正 大 学)	須貝 俊彦	(東 京 大 学)
七山 太	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)	春山 成子	(三 重 大 学)
氷見山 幸夫	(北 海 道 教 育 大 学 名 誉 教 授)	古谷 勝則	(千 葉 大 学)
松本 淳	(首 都 大 学 東 京)	安成 哲三	(総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)

□ 固体地球科学選出 31名

阿部 なつ江	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	井出 哲	(東 京 大 学)
入舩 徹男	(愛 媛 大 学)	岩田 知孝	(京 都 大 学)
岩森 光	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	ウォリス サイ モン	(名 古 屋 大 学)
歌田 久司	(東 京 大 学)	大久保 修平	(東 京 大 学)
太田 雄策	(東 北 大 学)	大谷 栄治	(東 北 大 学)
鍵 裕之	(東 京 大 学)	片山 郁夫	(広 島 大 学)
亀 伸樹	(東 京 大 学)	川勝 均	(東 京 大 学)
木村 学	(東 京 大 学)	木村 純一	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
久家 慶子	(京 都 大 学)	篠原 宏志	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
島 伸和	(神 戸 大 学)	下司 信夫	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
田中 聡	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	趙 大鵬	(東 北 大 学)
西村 卓也	(京 都 大 学 防 災 研 究 所)	西村 太志	(東 北 大 学)
橋本 武志	(北 海 道 大 学)	浜野 洋三	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
林 能成	(関 西 大 学)	古村 孝志	(東 京 大 学)
松澤 暢	(東 北 大 学)	道林 克禎	(静 岡 大 学)
山岡 耕春	(名 古 屋 大 学)		

□ 地球生命科学選出 9名

井龍 康文	(東 北 大 学)	遠藤 一佳	(東 京 大 学)
大河内 直彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	川幡 穂高	(東 京 大 学)
北村 晃寿	(静 岡 大 学)	高井 研	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
高野 淑識	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	高橋 嘉夫	(東 京 大 学)
西 弘嗣	(東 北 大)		

□ 地球惑星科学総合選出 11名

阿部 國廣	(認 定 NPO 法 人 自 然 再 生 セ ン タ ー)	飯田 佑輔	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
小田 啓邦	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)	熊谷 英憲	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
小林 則彦	(西 武 学 園)	佐野 有司	(東 京 大 学)
瀧上 豊	(関 東 学 園 大 学)	島山 正恒	(聖 光 学 院 中 学 高 等 学 校)
宮嶋 敏	(埼 玉 県 立 深 谷 第 一 高 等 学 校)	矢島 道子	(東 京 医 科 歯 科 大 学)
横山 広美	(東 京 大 学)		

■ 団体会員： 49 団体

日本宇宙生物科学会	生命の起原および進化学会	日本地熱学会
日本応用地質学会	石油技術協会	地理科学学会
日本温泉科学会	日本雪氷学会	日本地理学会
日本海洋学会	日本測地学会	日本地理教育学会
日本火山学会	日本大気化学会	地理教育研究会
形の科学会	日本大気電気学会	地理情報システム学会
日本活断層学会	日本堆積学会	東京地学協会
日本気象学会	日本第四紀学会	東北地理学会
日本鉱物科学会	日本地学教育学会	土壌物理学会
日本古生物学会	地学団体研究会	日本粘土学会
日本沙漠学会	日本地下水学会	日本農業気象学会
資源地質学会	日本地球化学会	物理探査学会
日本地震学会	地球環境史学会	陸水物理研究会
日本情報地質学会	地球電磁気・地球惑星圏学会	日本リモートセンシング学会
日本水文科学会	日本地形学連合	日本惑星科学会
水文・水資源学会	日本地質学会	
生態工学会	日本地図学会	

(3) セクションボード

□ 宇宙惑星科学セクション

高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)	田近 英一	(東 京 大 学)
関 華奈子	(東 京 大 学)	長妻 努	(情 報 通 信 研 究 機 構)
中村 昭子	(神 戸 大 学)	中村 卓司	(国 立 極 地 研 究 所)
橘 省吾	(北 海 道 大 学)	中村 正人	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
相川 祐理	(筑 波 大 学)	並木 則行	(国 立 天 文 台)
牛尾 知雄	(大 阪 大 学)	能勢 正仁	(京 都 大 学)
大村 善治	(京 都 大 学)	藤井 良一	(名 古 屋 大 学)
笠羽 康正	(東 北 大 学)	藤本 正樹	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
加藤 雄人	(東 北 大 学)	百瀬 宗武	(茨 城 大 学)
草野 完也	(名 古 屋 大 学)	横山 央明	(東 京 大 学)
倉本 圭	(北 海 道 大 学)	吉川 顕正	(九 州 大 学)
小久保 英一郎	(国 立 天 文 台)	フイシン リュー	(九 州 大 学)
佐々木 晶	(大 阪 大 学)	和田 浩二	(千 葉 工 業 大 学)
鈴木 健	(東 京 大 学)	渡邊 誠一郎	(名 古 屋 大 学)

□ 大気水圏科学セクション

蒲生 俊敬	(東 京 大 学)	知北 和久	(北 海 道 大 学)
杉田 倫明	(筑 波 大 学)	津田 敏隆	(京 都 大 学)
佐藤 薫	(東 京 大 学)	坪木 和久	(名 古 屋 大 学)
川合 義美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	東塚 知己	(東 京 大 学)
伊藤 進一	(東 京 大 学)	中村 尚	(東 京 大 学)
沖 理子	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)	西井 和晃	(三 重 大 学)
神沢 博	(名 古 屋 大 学)	花輪 公雄	(東 北 大 学)
河宮 未知生	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	早坂 忠裕	(東 北 大 学)
北 和之	(茨 城 大 学)	原田 尚美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
鬼頭 昭雄	(筑 波 大 学)	樋口 篤志	(千 葉 大 学)
近藤 豊	(国 立 極 地 研 究 所)	日比谷 紀之	(東 京 大 学)
佐藤 正樹	(東 京 大 学)	松本 淳	(首 都 大 学 東 京)
鈴木 啓助	(信 州 大 学)	村山 泰啓	(情 報 通 信 研 究 機 構)

多田 隆治 (東 京 大 学)
谷口 真人 (総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)

安成 哲平 (北 海 道 大 学)
吉田 尚弘 (東 京 工 業 大 学)

□ 地球人間圏科学セクション

春山 成子 (三 重 大 学)
佐竹 健治 (東 京 大 学)
奥村 晃史 (広 島 大 学)
近藤 昭彦 (千 葉 大 学)
須貝 俊彦 (東 京 大 学)
青木 賢人 (金 沢 大 学)
秋本 弘章 (獨 協 大 学)
荒井 良雄 (東 京 大 学)
井田 仁康 (筑 波 大 学)
碓井 照子 (奈 良 大 学)
海津 正倫 (奈 良 大 学)
王 勤学 (国 立 環 境 研 究 所)
岡本 耕平 (名 古 屋 大 学)
小口 高 (東 京 大 学)
小口 千明 (埼 玉 大 学)
後藤 和久 (東 北 大 学)
島津 弘 (立 正 大 学)
鈴木 毅彦 (首 都 大 学 東 京)

鈴木 康弘 (名 古 屋 大 学)
瀧上 豊 (関 東 学 園 大 学)
中村 俊夫 (名 古 屋 大 学)
奈佐原 顕郎 (筑 波 大 学)
七山 太 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
西村 拓 (東 京 大 学)
氷見山 幸夫 (北 海 道 教 育 大 学 名 誉 教 授)
藤本 潔 (南 山 大 学)
藤原 広行 (防 災 科 学 技 術 研 究 所)
古谷 勝則 (千 葉 大 学)
堀 和明 (名 古 屋 大 学)
松本 淳 (首 都 大 学 東 京)
目代 邦康 (日 本 ジ オ サ ー ビ ス 株 式 会 社)
安成 哲三 (総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)
山田 育穂 (中 央 大 学)
横山 祐典 (東 京 大 学)
吉田 英嗣 (明 治 大 学)
渡辺 悌二 (北 海 道 大 学)

□ 固体地球科学セクション

大谷 栄治 (東 北 大 学)
田中 聡 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
道林 克禎 (静 岡 大 学)
池田 剛 (九 州 大 学)
入船 徹男 (愛 媛 大 学)
岩森 光 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
ウォリス サイモン (名 古 屋 大 学)
歌田 久司 (東 京 大 学)
大久保 修平 (東 京 大 学)
鍵 裕之 (東 京 大 学)
片山 郁夫 (広 島 大 学)
金川 久一 (千 葉 大 学)
唐戸 俊一郎 (イ ェ ー ル 大 学)
川勝 均 (東 京 大 学)
河上 哲生 (京 都 大 学)
川本 竜彦 (京 都 大 学)
木村 純一 (海 洋 研 究 開 発 機 構)

サティッシュ クマール マ (新 潟 大 学)
ドソーダン
佐野 有司 (東 京 大 学)
鈴木 勝彦 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
武井 康子 (東 京 大 学)
田所 敬一 (名 古 屋 大 学)
中川 光弘 (北 海 道 大 学)
中田 節也 (東 京 大 学)
中村 美千彦 (東 北 大 学)
成瀬 元 (京 都 大 学)
西山 忠男 (熊 本 大 学)
福田 洋一 (京 都 大 学)
古村 孝志 (東 京 大 学)
日置 幸介 (北 海 道 大 学)
前野 深 (東 京 大 学)
松澤 暢 (東 北 大 学)
森下 知晃 (金 沢 大 学)
吉田 茂生 (九 州 大 学)

□ 地球生命科学セクション

遠藤 一佳 (東 京 大 学)
磯崎 行雄 (東 京 大 学)
小林 憲正 (横 浜 国 立 大 学)
生形 貴男 (京 都 大 学)
高野 淑識 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
稲垣 史生 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
井龍 康文 (東 北 大 学)
上野 雄一郎 (東 京 工 業 大 学)
大河内 直彦 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
掛川 武 (東 北 大 学)
川幡 穂高 (東 京 大 学)

北台 紀夫 (東 京 工 業 大 学)
北村 晃寿 (静 岡 大 学)
小宮 剛 (東 京 大 学)
鈴木 庸平 (東 京 大 学)
高井 研 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
高橋 嘉夫 (東 京 大 学)
對比地 孝亘 (東 京 大 学)
西 弘嗣 (東 北 大 学)
藤田 和彦 (琉 球 大 学)
山岸 明彦 (東 京 薬 科 大 学)
北里 洋 (東 京 海 洋 大 学)

(4) 委員会等

□ 総務委員会

古村 孝志 (東 京 大 学) 西 弘嗣 (東 北 大 学)

□ 財務委員会

北 和之 (茨 城 大 学) 山田 泰広 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
井出 哲 (東 京 大 学) 向山 栄 (国 際 航 業 株 式 会 社)
掛川 武 (東 北 大 学) 高野 修 (石 油 資 源 開 発 株 式 会 社)

□ 広報普及委員会

田近 英一 (東 京 大 学) 吉本 和生 (横 浜 市 立 大 学)
道林 克禎 (静 岡 大 学) 関根 康人 (東 京 大 学)
原 辰彦 (建 築 研 究 所) 山田 耕 (早 稲 田 大 学)
橘 省吾 (北 海 道 大 学) 久利 美和 (東 北 大 学)
成瀬 元 (京 都 大 学) 紺屋 恵子 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
高橋 幸弘 (北 海 道 大 学) 瀧上 豊 (関 東 学 園 大 学)
宮本 英昭 (東 京 大 学) 笠井 康子 (通 信 総 合 研 究 所)
横山 広美 (東 京 大 学) 飯田 佑輔 (関 西 学 院 大 学)
東宮 昭彦 (産 業 技 術 総 合 研 究 所) 村上 豪 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
谷 篤史 (大 阪 大 学) 和田 浩二 (千 葉 工 業 大 学)
阿部 彩子 (東 京 大 学) 岡 顕 (東 京 大 学)
奥村 晃史 (広 島 大 学) 植田 宏昭 (筑 波 大 学)
生形 貴男 (京 都 大 学) 後藤 和久 (東 北 大 学)
大河内 直彦 (海 洋 研 究 開 発 機 構) 吉澤 和範 (北 海 道 大 学)
佐藤 活志 (京 都 大 学) 黒田 潤一郎 (東 京 大 学)

□ 環境災害対応委員会

奥村 晃史 (広 島 大 学) 柳澤 教雄 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
井出 哲 (東 京 大 学) 宇根 寛 (国 土 地 理 院)
川畑 大作 (産 業 技 術 総 合 研 究 所) 浅野 敏久 (広 島 大 学)
吉田 英嗣 (明 治 大 学) 後藤 真太郎 (立 正 大 学)
北 和之 (茨 城 大 学) 村山 良之 (山 形 大 学)
田中 賢治 (京 都 大 学) 大月 義徳 (東 北 大 学)
竹村 貴人 (日 本 大 学) 作野 裕司 (広 島 大 学)
井口 隆 (防 災 科 学 技 術 研 究 所) 知北 和久 (北 海 道 大 学)
山里 平 (気 象 研 究 所) 卜部 厚志 (新 潟 大 学)
三浦 大助 (電 力 中 央 研 究 所) 鈴木 正哉 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
塩竈 秀夫 (国 立 環 境 研 究 所) 小俣 雅志 (株 式 会 社 パ ス コ)
小司 禎教 (気 象 庁 気 象 研 究 所) 松島 信一 (京 都 大 学)
葛葉 泰久 (三 重 大 学) 林 武司 (秋 田 大 学)
河島 克久 (新 潟 大 学) 青木 久 (東 京 学 芸 大 学)
松本 弾 (産 業 技 術 総 合 研 究 所) 北村 晃寿 (静 岡 大 学)
宮地 良典 (産 業 技 術 総 合 研 究 所) 山下 亜紀郎 (筑 波 大 学)
小嶋 浩嗣 (京 都 大 学) 益田 晴恵 (大 阪 市 立 大 学)
岡田 雅樹 (国 立 極 地 研 究 所) 小口 千明 (埼 玉 大 学)

□ ダイバーシティ推進委員会

原田 尚美 (海 洋 研 究 開 発 機 構) 末吉 哲雄 (国 立 極 地 研 究 所)
小口 千明 (埼 玉 大 学) 小杉 緑子 (京 都 大 学)
若狭 幸 (秋 田 大 学) 津野 宏 (横 浜 国 立 大 学)

井岡 聖一郎 (弘 前 大 学)	山下 勝行 (岡 山 大 学)
富樫 茂子 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)	藤光 康宏 (九 州 大 学)
渡邊 誠一郎 (名 古 屋 大 学)	松山 洋 (首 都 大 学 東 京)
小川 佳子 (会 津 大 学)	新井 真由美 (日 本 科 学 未 来 館)
天野 敦子 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)	浜田 盛久 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
鈴木 由希 (早 稲 田 大 学)	守屋 和佳 (早 稲 田 大 学)
紺屋 恵子 (海 洋 研 究 開 発 機 構)	濱村 奈津子 (九 州 大 学)
清野 直子 (気 象 研 究 所)	吉川 知里 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
宋 苑瑞 (東 京 大 学)	南雲 直子 (土 木 研 究 所)
土屋 範芳 (東 北 大 学)	古市 剛久 (University of the Sunshine Coast)
齊藤 竜彦 (防 災 科 学 技 術 研 究 所)	高橋 幸弘 (北 海 道 大 学)
宮下 由香里 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)	陣 英克 (情 報 通 信 研 究 機 構)
堀 利栄 (愛 媛 大 学)	阿部 なつ江 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
坂野井 和代 (駒 澤 大 学)	前野 深 (東 京 大 学)
安成 哲平 (北 海 道 大 学)	

□ 教育検討委員会

島山 正恒 (聖 光 学 院 中 学 高 等 学 校)	川合 美千代 (東 京 海 洋 大 学)
西 弘嗣 (東 北 大 学)	奥山 康子 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
根本 泰雄 (桜 美 林 大 学)	市川 温 (京 都 大 学)
瀧上 豊 (関 東 学 園 大 学)	小西 啓之 (大 阪 教 育 大 学)
宮嶋 敏 (埼 玉 県 立 深 谷 第 一 高 等 学 校)	山田 伸之 (福 岡 教 育 大 学)
阿部 國廣 (自 然 再 生 セ ン タ ー)	南島 正重 (東 京 都 立 兩 国 高 等 学 校)
縫村 崇行 (千 葉 科 学 大 学)	林 慶一 (甲 南 大 学)
三田 肇 (福 岡 工 業 大 学)	藤光 康宏 (九 州 大 学)
宮下 敦 (成 蹊 中 学 高 等 学 校)	飯田 和明 (埼 玉 県 立 浦 和 東 高 等 学 校)
西村 光史 (東 洋 大 学)	小田 隆史 (宮 城 教 育 大 学)
石内 鉄平 (明 石 工 業 高 等 専 門 学 校)	津野 宏 (横 浜 国 立 大 学)
島津 弘 (立 正 大 学)	石原 与四郎 (福 岡 大 学)

□ 情報システム委員会

小口 高 (東 京 大 学)	早川 裕弼 (東 京 大 学)
近藤 康久 (総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)	古村 孝志 (東 京 大 学)
村山 泰啓 (情 報 通 信 研 究 機 構)	三宅 弘恵 (東 京 大 学)
坂野井 和代 (駒 澤 大 学)	山本 佳世子 (電 気 通 信 大 学)
篠原 育 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)	横山 央明 (東 京 大 学)

□ ジャーナル企画経営委員会

川幡 穂高 (東 京 大 学)	佐藤 正樹 (東 京 大 学)
津田 敏隆 (京 都 大 学)	多田 隆治 (東 京 大 学)
木村 学 (東 京 海 洋 大 学)	松本 淳 (首 都 大 学 東 京)
中村 正人 (宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)	倉本 圭 (北 海 道 大 学)
田近 英一 (東 京 大 学)	小田 啓邦 (産 業 技 術 総 合 研 究 所)
井龍 康文 (東 北 大 学)	西 弘嗣 (東 北 大 学)
吉岡 祥一 (神 戸 大 学)	仲江川 敏之 (気 象 研 究 所)

□ ジャーナル編集委員会

井龍 康文 (東 北 大 学)	金谷 有剛 (海 洋 研 究 開 発 機 構)
-------------------	---------------------------

川幡 穂高	(東 京 大 学)	池原 研	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
吉岡 祥一	(神 戸 大 学)	清水 久芳	(東 京 大 学)
佐藤 正樹	(東 京 大 学)	山本 衛	(京 都 大 学)
多田 隆治	(東 京 大 学)	長妻 努	(情 報 通 信 研 究 機 構)
松本 淳	(首 都 大 学 東 京)	サイモン・ウォリス	(名 古 屋 大 学)
倉本 圭	(北 海 道 大 学)	三ヶ田 均	(京 都 大 学)
小林 憲正	(横 浜 国 立 大 学)	菊地 俊夫	(首 都 大 学 東 京)
井上 源喜	(大 妻 女 子 大 学)	村山 祐司	(筑 波 大 学)
日比谷 紀之	(東 京 大 学)	大竹 真紀子	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)
中田 節也	(東 京 大 学)	千木 良雅弘	(京 都 大 学)
宮内 崇裕	(千 葉 大 学)	早坂 忠裕	(東 北 大 学)
大谷 栄治	(東 北 大 学)	芳村 圭	(東 京 大 学)
平島 崇男	(京 都 大 学)	大手 信人	(京 都 大 学)
遠藤 一佳	(東 京 大 学)	三浦 裕亮	(東 京 大 学)
渡辺 寧	(秋 田 大 学)	八木 勇治	(筑 波 大 学)
加藤 照之	(東 京 大 学)	掛川 武	(東 北 大 学)
川勝 均	(東 京 大 学)	早川 裕弼	(東 京 大 学)
竹内真司	(日 本 大 学)	高野 淑識	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
兒玉 裕二	(国 立 極 地 研 究 所)	齋藤 文紀	(島 根 大 学)
渋谷 和雄	(国 立 極 地 研 究 所)	岡 顕	(東 京 大 学)

□ 大会運営委員会

浜野 洋三	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	能勢 正仁	(京 都 大 学)
岩上 直幹	(な し)	近藤 昭彦	(千 葉 大 学)
興野 純	(筑 波 大 学)	財城 真寿美	(成 蹊 大 学)
高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)	赤坂 郁美	(専 修 大 学)
道林 克禎	(静 岡 大 学)	和田 浩二	(千 葉 工 業 大 学)
中村 昭子	(神 戸 大 学)	小谷 亜由美	(名 古 屋 大 学)
北 和之	(茨 城 大 学)	縫村 崇行	(千 葉 科 学 大 学)

□ グローバル戦略委員会

高橋 幸弘	(北 海 道 大 学)	橘 省吾	(東 京 大 学)
木村 学	(東 京 海 洋 大 学)	中村 尚	(東 京 大 学)
ウォリス サイモン	(東 京 大 学)	田島 文子	(University of California)
日比谷 紀之	(東 京 大 学)	三宅 弘恵	(東 京 大 学)
蒲生 俊敬	(東 京 大 学)	西 弘嗣	(東 北 大 学)
春山 成子	(三 重 大 学)	木下 正高	(東 京 大 学)
大谷 栄治	(東 北 大 学)	齋藤 文紀	(島 根 大 学)
遠藤一佳	(東 京 大 学)	中川 貴司	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
関 華奈子	(東 京 大 学)	安成 哲平	(北 海 道 大 学)
末広 潔	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	久保田 尚之	(北 海 道 大 学)
藤本 正樹	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)	津川 卓也	(情 報 通 信 研 究 機 構)
村山 泰啓	(情 報 通 信 研 究 機 構)	松本 淳	(首 都 大 学 東 京)

□ 顕彰委員会

中村 正人	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)	伊藤 進一	(東 京 大 学)
津田 敏隆	(京 都 大 学)	奥村 晃史	(広 島 大 学)
中村 昭子	(神 戸 大 学)	須貝 俊彦	(東 京 大 学)
成瀬 元	(京 都 大 学)	ウォリス サイモン	(名 古 屋 大 学)

諸田 智克 (名古屋大学) 川勝 均 (東京大学)
 渡部 重十 (北海道大学) 磯崎 行雄 (東京大学)
 飯田 真一 (森林総合研究所) 真鍋 真 (国立科学博物館)

□ フェロー審査委員会

非公表

* 審査委員会規則第6条により、委員名は当該年度の全委員が改選された時点で公表するものとする。

□ 三宅賞審査委員会

非公表

* 審査委員会規則第6条により、委員名は受賞者が決定した時点で公表するものとする。

2. 役員会等に関する事項

(1) 平成29年定期社員総会

平成29年5月23日(火) 15:30~16:30、千葉幕張メッセ国際会議場 コンベンション
 ホールBにおいて開催。次の議案が付議され、原案通り承認された。

開催月日	議 事 事 項	
5月23日	第1号議案 平成28年度(公益社団法人第6期)決算承認の件 第2号議案 定款一部変更の件(第7条、第27条) 第3号議案 法人運営基本規程一部変更の件(第6条、第15条)	承認 承認 承認

(2) 理事会

今期中に6回開催した。主要決議事項は以下の通りである。

開催月日	議 事 事 項	
平成29年 第1回5月2日	第1号議案 新入会員承認の件 第2号議案 学協会長会議幹事会規則承認の件 第3号議案 総会議事および資料の承認	承認 承認 承認
第2回7月21日	第1号議案 代表理事(会長)および業務執行理事選任の件 第2号議案 選挙管理委員会設置と選挙日程の設定の件 第3号議案 日本学術協力財団賛助会員加入の件 第4号議案 地球惑星科学振興西田賞規則改訂の件 第5号議案 顕彰委員会規則改訂の件 第6号議案 大会特別手当規則の制定の件 第7号議案 2020年の幕張でのAGUとの共同開催について	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
第3回9月29日	第1号議案 新入会員承認の件 第2号議案 委員会委員承認の件 第3号議案 パブリックセッション小委員会設置の件 第4号議案 地球科学研究費補助金(研究成果公開促進費)の提案書提出の件 第5号議案 公益社団法人日本地球惑星科学連合学術賞三宅賞規則承認の件 第6号議案 2021年連合大会開催会場の件	承認 承認 承認 承認 承認 承認
第4回 11月28日	第1号議案 新入会員承認の件(古村孝志理事) 第2号議案 委員会委員の承認の件(古村孝志理事) 第3号議案 リソスフェア・マンツルのダイナミクスに関する第2回アジア・太平洋域ワークショップ共催申請承認の件	承認 承認 承認

	第4号議案 日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）候補者募集要項承認の件 第5号議案 ハラスメントアンケート実施について	承認 承認
第5回 1月23日	第1号議案 新入会員承認の件 第2号議案 賛助会員承認の件 第3号議案 委員会委員承認の件 第4号議案 国際金星会議2018 第74回藤原セミナー「あかつき」が拓く金星の科学協賛の件 第5号議案 「成層圏・対流圏の諸過程と気候影響研究」に関する2018年総会協賛の件 第6号議案 慶弔規則の改訂について 第7号議案 男女共同参画学協会連絡会の分担金の見直しについて	承認 承認 承認 承認 承認 承認 承認
第6回 3月27日	第1号議案 新入会員承認の件 第2号議案 委員会委員承認の件 第3号議案 平成30年度事業計画書および収支予算書承認の件 第4号議案 事務局員（常勤）就業規則制定の件 第5号議案 事務局員（非常勤）就業規則制定の件 第6号議案 ジャーナル事業事務局員（常勤）就業規則制定の件 第7号議案 ジャーナル事業事務局員（非常勤）就業規則制定の件 第8号議案 退職金規則制定の件 第9号議案 慰労金規則制定の件 第10号議案 賃金規則制定の件 第11号議案 フレックスタイム労使協定書制定の件 第12号議案 時給規則改正の件 第13号議案 「学生旅費補助特定費用準備資金」取り扱い規則設置の件 第14号議案 2018年度連合フェロー認定について 第15号議案 日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）受賞者認定について	承認 承認 承認 継続審議 継続審議 継続審議 継続審議 継続審議 継続審議 継続審議 継続審議 承認 承認 承認

(3) 学協会長会議

- ・平成29年5月23日（火）午後12時から13時23分 幕張メッセ国際会議場 101
- ・平成29年10月12日（木）午後3時から5時 東京大学地震研究所2号館第一会議室
議題は以下の通りである。

開催月日	議 事 事 項
第16回 5月23日	1. 前回議事録確認 2. 日本地球惑星科学連合活動報告 3. 日本学術会議の近況報告 4. 団体会員に関わる定款等の変更について 5. 次期学協会長議長の選任 6. その他
第17回 10月12日	1. 前回議事録確認 2. 日本地球惑星科学連合活動報告 3. 日本学術会議の近況報告 4. 日本地球惑星科学連合理事会への意見とその集約について 5. その他

3. 関連団体との連携及び協力に関する事項

□ 共催・協賛・後援等

承認日	種別	会合名等	開催期間
4月20日	後援	第58回高圧討論会	2017年11月8日(水)～11月10日(金)
5月15日	後援	公開シンポジウム「我が国の衛星地球観測計画」	2017年7月18日(火)
5月17日	後援	2017日本放射化学学会年会・第61回放射化学討論会	2017年9月6日(水)～9月8日(金)
5月29日	協賛	16th SIAM Conference on Parallel Processing for Scientific Computing (SIAM PP18)	2018年3月7日(水)～3月10日(土)
6月1日	協賛	ハイパフォーマンスコンピューティングと計算科学シンポジウム(HPCS2017)	2017年6月5日(月)～6月6日(火)
5月23日	後援	第15回衛星帯電技術国際会議	2018年6月25日(月)～6月29日(金)
6月6日	後援	災害軽減と持続的社会的形成に向けた科学と社会の協働・協創	2017年9月17日(日)
6月7日	協賛	日本地質学会第124年学術大会(愛媛大会)巡検	2017年9月19日(火)～20日(水)
6月9日	後援	学術フォーラム「放射性物質の移動の計測と予測-あのととき・いま・これからの安心・安全」	2017年8月7日(月)
6月12日	後援	地球環境変化研究の転換期における人間的側面研究(HD)の強化と推進に向けて	2017年7月3日(月)
6月19日	後援	公開シンポジウム「Future Earth時代のWCRP」	2017年7月28日(金)
6月26日	協賛	女子中高生夏の学校2017～科学・技術・人との出会い～	2017年8月5日(土)～8月7日(月)
6月26日	協賛	第33回京都賞記念ワークショップ 基礎科学部門	2017年11月12日(日)
7月4日	共催	第11回科学地理オリンピック日本選手権大会兼第14回国際地理オリンピック選抜大会	2017年9月1日(金)～3月11日(日)
8月10日	協賛	第14回 iCACGP シンポジウム/第15回 IGAC 科学会議2018	2018年9月25日(火)～9月29日(土)
9月7日	後援	日本学術会議公開シンポジウム「持続可能な社会づくりにおける地理教育の充実 -SDGs 実現における教育の役割-」	2017年11月4日(土)
9月10日	後援	日本学術会議公開シンポジウム「GLP(全球陸域研究計画)の推進と国連持続可能な開発目標(SDGs)への貢献」	2017年10月16日(月)
9月26日	協賛	第13回 SEGJ 国際シンポジウム	2018年11月12日(月)～11月14日(水)
11月28日	共催	リソスフェア・マンツルのダイナミクスに関する第2回アジア・太平洋域ワークショップ	2018年8月6日(月)～8月9日(木)
11月8日	協賛	2017年度量子ビームサイエンスフェスタ	2018年3月2日(金)～3月4日(日)
12月19日	後援	科学教育研究協議会 第65回全国研究大会・群馬大会	2018年8月3日(金)～8月5日(日)
1月11日	協賛	“あかつき”が拓く新しい金星観(仮称)	2018年2月11日(日)～2月28日(水)
1月23日	協賛	国際金星会議2018 第74回藤原セミナー「あかつき」が拓く金星の科学	2018年9月11日(火)～9月14日(金)
1月17日	後援	第17回世界湖沼会議(いばらき霞ヶ浦2018)	2018年10月15日(月)～10月19日(金)
1月23日	協賛	「成層圏・対流圏の諸過程と気候影響研究」に関する2018年総会	2018年9月30日(日)～10月5日(金)
2月6日	協賛	第23回計算工学講演会	2018年6月6日(水)～6月8日(金)

4. 登記、申請等に関する事項

なし

5. 職員に関する事項

勤務形態	当期末 (平成 29 年 3 月末)	前期末比増減	備考
週 5 日勤務	3 名	0 名	
週 4 日勤務	5 名	0 名	
週 2 日勤務	5 名	4 名	
週 1 日勤務	2 名	-4 名	
合 計	15 名	0 名	

6. その他

(1) 特定費用準備資金、国際化推進に関する事項

- ・ 特定費用準備資金「学生旅費補助特定費用準備資金」を設置した。
- ・ 特定費用準備資金「地球惑星科学に関わる外国学協会との連携推進のための特定費用準備資金取り扱い規則」を取り崩し、海外からの大会参加者支援および若手研究者大会参加支援に使用した。

(2) 連合諸規則・規程等の制定と改正

- ・ 定款第7条、第27条を改訂した。(定時社員総会決議)
- ・ 法人運営基本規程第6条、第15条を改訂した。(定時社員総会決議)
- ・ 学協会長会議幹事会規則を設置した。(第1回理事会決議)
- ・ 地球惑星科学振興西田賞規則を改訂した。(第2回理事会決議)
- ・ 顕彰委員会規則を改訂した。(第2回理事会決議)
- ・ 日本地球惑星科学連合学術賞(三宅賞)規則ならびに審査委員会規則を設置した。(第3回理事会決議)
- ・ 大会特別手当規則を設置した。(第2回理事会決議)
- ・ 慶弔規則の改訂第5回理事会

(3) その他

- ・ パブリックセッション小委員会を設置した。(第3回理事会決議)
- ・ JpGU-AGU Joint Meeting 2017 準備タスクフォースは 2017 年連合大会終結に任務を終え解散した。
- ・ 日本学術協力財団賛助会員へ加入した。(第2回理事会決議)
- ・ 日本学術会議地球惑星科学委員会からの依頼に基づき、夢ロードマップ改訂のために中期および長期の計画に関する情報を募集した。

(5) 代議員選挙・セクションプレジデント選挙に関する事項

- ・ 選挙管理委員会を組織し、代議員選挙、セクションプレジデント選挙および理事候補者選挙を以下の日程で行った。開票結果詳細は、日本地球惑星科学連合ホームページに掲載した。

2017年度日本地球惑星科学連合 選挙管理委員会委員名簿

委員長 癸生川 陽子 (横浜国立大学)

委員 中田 裕之 (千葉大学)、小寺 浩二 (法政大学)、鈴木 毅彦 (首都大学東京)、
飯塚 毅 (東京大学)、一瀬 建日 (東京大学)

1. 代議員選挙

代議員選挙日程

代議員選挙公示	2017年 8月 1日 (火)
代議員選挙立候補等受付開始	2017年 8月 10日 (木) 9:00
代議員選挙立候補等受付締切	2017年 9月 11日 (月) 17:00
代議員選挙投票開始	2017年 10月 2日 (月) 9:00
代議員選挙投票締切	2017年 11月 1日 (水) 17:00
代議員選挙開票、結果報告	2017年 11月 6日 (月)

代議員選出総数	150名
宇宙惑星科学	23名
大気水圏科学	30名
地球人間圏科学	18名
固体地球科学	50名
地球生命科学	13名
地球惑星科学総合	16名

2017年代議員選挙選出代議員 (150名) 任期：2018年4月1日～2020年3月31日
(登録区分別、50音順)

宇宙惑星科学 (定数:23)

中村 正人	(宇宙航空研究開発機構)	田近 英一	(東京大学)
佐々木 晶	(大阪大学)	笠羽 康正	(東北大学)
関 華奈子	(東京大学)	中本 泰史	(東京工業大学)
三好 由純	(名古屋大学)	能勢 正仁	(京都大学)
高橋 幸弘	(北海道大学)	佐々木 貴教	(京都大学)
中村 昭子	(神戸大学)	清水 敏文	(宇宙航空研究開発機構)
倉本 圭	(北海道大学)	吉川 顕正	(九州大学)
渡邊 誠一郎	(名古屋大学)	保井 みなみ	(神戸大学)
加藤 雄人	(東北大学)	百瀬 宗武	(茨城大学)
小久保 英一郎	(国立天文台)	はしもと じょーじ	(岡山大学)
長妻 努	(情報通信研究機構)	横山 央明	(東京大学)
中村 卓司	(国立極地研究所)		

大気水圏科学 (定数:30)

中村 尚	(東 京 大 学)	蒲生 俊敬	(東 京 大 学)
河宮 未知生	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	渡辺 真吾	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
佐藤 正樹	(東 京 大 学)	津田 敏隆	(情 報 ・ シ ス テ ム 研 究 機 構)
佐藤 薫	(東 京 大 学)	近藤 豊	(国 立 極 地 研 究 所)
安成 哲平	(北 海 道 大 学)	時長 宏樹	(京 都 大 学)
日比谷 紀之	(東 京 大 学)	三浦 裕亮	(東 京 大 学)
沖 理子	(宇 宙 航 空 研 究 開 発 機 構)	大手 信人	(京 都 大 学)
原田 尚美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	山内 恭	(国 立 極 地 研 究 所)
三好 建正	(理 化 学 研 究 所)	谷口 真人	(総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)
早坂 忠裕	(東 北 大 学)	吉田 尚弘	(東 京 工 業 大 学)
樋口 篤志	(千 葉 大 学)	杉山 慎	(北 海 道 大 学)
伊藤 進一	(東 京 大 学)	竹内 望	(千 葉 大 学)
東塚 知己	(東 京 大 学)	村山 泰啓	(情 報 通 信 研 究 機 構)
檜山 哲哉	(名 古 屋 大 学)	吉川 裕	(京 都 大 学)
川合 義美	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	川口 慎介	(海 洋 研 究 開 発 機 構)

地球人間圏科学 (定数:18)

小口 高	(東 京 大 学)	佐竹 健治	(東 京 大 学)
須貝 俊彦	(東 京 大 学)	井田 仁康	(筑 波 大 学)
春山 成子	(三 重 大 学)	安成 哲三	(総 合 地 球 環 境 学 研 究 所)
松本 淳	(首 都 大 学 東 京)	氷見山 幸夫	(北 海 道 教 育 大 学 名 誉 教 授)
島津 弘	(立 正 大 学)	七山 太	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
近藤 昭彦	(千 葉 大 学)	秋本 弘章	(獨 協 大 学)
小口 千明	(埼 玉 大 学)	北村 有迅	(鹿 児 島 大 学)
奥村 晃史	(広 島 大 学)	徳永 朋祥	(東 京 大 学)
青木 賢人	(金 沢 大 学)	熊野 善介	(静 岡 大 学)

固体地球科学 (定数:50)

木村 学	(東 京 海 洋 大 学)	中川 光弘	(北 海 道 大 学)
古村 孝志	(東 京 大 学)	松澤 孝紀	(防 災 科 学 技 術 研 究 所)
道林 克禎	(静 岡 大 学)	森下 知晃	(金 沢 大 学)
久家 慶子	(京 都 大 学)	田所 敬一	(名 古 屋 大 学)
井出 哲	(東 京 大 学)	Madhusoodhan Satish-Kumar	(新 潟 大 学)
岩森 光	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	鍵 裕之	(東 京 大 学)
大谷 栄治	(東 北 大 学)	成瀬 元	(京 都 大 学)
武井 康子	(東 京 大 学)	福島 洋	(東 北 大 学)
田中 聡	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	藤田 英輔	(防 災 科 学 技 術 研 究 所)
入舩 徹男	(愛 媛 大 学)	島 伸和	(神 戸 大 学)
川勝 均	(東 京 大 学)	針金 由美子	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
サイモン ウォリス	(東 京 大 学)	西山 忠男	(熊 本 大 学)
片山 郁夫	(広 島 大 学)	福山 英一	(防 災 科 学 技 術 研 究 所)
中村 美千彦	(東 北 大 学)	岩田 知孝	(京 都 大 学)
深畑 幸俊	(京 都 大 学)	橋本 武志	(北 海 道 大 学)
阿部 なつ江	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	篠原 宏志	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
趙 大鵬	(東 北 大 学)	歌田 久司	(東 京 大 学)
浜野 洋三	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	坂口 有人	(山 口 大 学)
前野 深	(東 京 大 学)	松原 誠	(防 災 科 学 技 術 研 究 所)
西村 太志	(東 北 大 学)	辻森 樹	(東 北 大 学)
小木 曾 哲	(京 都 大 学)	馬場 俊孝	(徳 島 大 学)

前田 拓人	(東 京 大 学)	鈴木 勝彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
下司 信夫	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)	中原 恒	(東 北 大 学)
木村 純一	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	辻 健	(九 州 大 学)
大園 真子	(北 海 道 大 学)	飯沼 卓史	(海 洋 研 究 開 発 機 構)

地球生命科学 (定数:13)

川幡 穂高	(東 京 大 学)	遠藤 一佳	(東 京 大 学)
高野 淑識	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	豊福 高志	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
西 弘嗣	(東 北 大 学)	金子 雅紀	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)
岡崎 裕典	(九 州 大 学)	掛川 武	(東 北 大 学)
井上 麻夕里	(岡 山 大 学)	井龍 康文	(東 北 大 学)
ロバート ジェンキンズ	(金 沢 大 学)	池原 実	(高 知 大 学)
大河内 直彦	(海 洋 研 究 開 発 機 構)		

地球惑星科学総合(定数:16)

宮嶋 敏	(埼 玉 県 立 熊 谷 高 等 学 校)	中川 和之	(時 事 通 信 社 解 説 委 員)
佐野 有司	(東 京 大 学)	田口 康博	(千 葉 県 立 銚 子 高 等 学 校)
矢島 道子	(日 本 大 学)	伊東 明彦	(宇 都 宮 大 学)
市川 洋	(元 海 洋 開 発 研 究 機 構)	熊谷 英憲	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
上村 剛史	(海 城 中 学 高 等 学 校)	瀧上 豊	(関 東 学 園 大 学)
横山 広美	(東 京 大 学)	小俣 珠乃	(海 洋 研 究 開 発 機 構)
稲垣 史生	(海 洋 研 究 開 発 機 構)	中井 咲織	(東 京 大 学)
畠山 正恒	(聖 光 学 院 中 学 高 等 学 校)	小田 啓邦	(産 業 技 術 総 合 研 究 所)

2. セクションプレジデント選挙

選挙日程

セクションプレジデント選挙公示 2017年11月6日(月)

セクションプレジデント選挙候補者受付開始 2017年11月7日(火)9:00

セクションプレジデント選挙候補者受付締切 2017年11月16日(木)17:00

セクションプレジデント選挙投票開始 2017年11月28日(火)9:00

セクションプレジデント選挙投票締切 2017年12月11日(月)17:00

セクションプレジデント選挙開票結果報告 2017年12月13日(水)

選挙結果

全てのセクションにおいて、それぞれ1名ずつ立候補・推薦があり、会員による投票をま
たず、セクションプレジデントを決定した。任期は、2018年6月1日～2020年5月31日

- ・宇宙惑星科学セクション： 高橋 幸弘 (北海道大学)
- ・大気水圏科学セクション： 蒲生 俊敬 (東京大学)
- ・地球人間圏科学セクション： 奥村 晃史 (広島大学)
- ・固体地球科学セクション： 大谷 栄治 (東北大学)
- ・地球生命科学セクション： 遠藤 一佳 (東京大学)

3. 理事候補者選挙

選挙日程

公示 2017年12月13日(木)
候補者受付開始 2017年12月21日(木) 9:00
候補者受付締切 2018年1月11日(木) 17:00
投票開始 2018年1月31日(水)
投票締切 2018年2月15日(木)
開票、役員候補者推薦委員会へ報告 2018年2月23日

4. 役員候補者推薦委員会

平成30年3月26日(月) 役員候補者推薦委員会会議開催

選挙管理委員会より提出された理事候補者選挙の選挙結果を元に、理事候補者20名を選出した。また監事候補者3名を選出した。この候補者を来年度定時社員総会へ提出する。

役員候補者推薦委員会名簿

会長	川幡穂高	(東京大学)
学協会長会議議長	齋藤 文紀	(島根大学)
セクションプレジデント		
宇宙惑星科学	高橋幸弘	(北海道大学)
大気水圏科学	蒲生俊敬	(東京大学)
地球人間圏科学	奥村晃司	(広島大学)
固体地球科学	大谷栄治	(東北大学)
地球生命科学	遠藤一佳	(東京大学)

理事候補者(50音順)

氏名	(所属)
阿部 なつ江	(海洋研究開発機構)
市川 洋	(無し)
井出 哲	(東京大学大学院理学系研究科)
ウォリス サイモン	(東京大学)
小口 千明	(埼玉大学)
川幡 穂高	(東京大学 大気海洋研究所)
河宮 未知生	(海洋研究開発機構)
木村 学	(東京海洋大学)
倉本 圭	(北海道大学)
田近 英一	(東京大学)
中村 正人	(宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所)
中村 昭子	(神戸大学)
成瀬 元	(京都大学)
西 弘嗣	(東北大学学術資源研究公開センター)
浜野 洋三	(無し)
日比谷 紀之	(東京大学大学院理学系研究科)
古村 孝志	(東京大学 地震研究所)
松本 淳	(首都大学東京)
道林 克禎	(静岡大学)

監事候補者（50 音順）

加藤 照之 (神奈川県温泉地学研究所)
鈴木善和 (プラタナス法律事務所)
氷見山幸夫 (北海道教育大学名誉教授)

II. 会員の状況

(平成 28 年 3 月末現在)

	第 2 期末	第 3 期末	第 4 期末	第 5 期末	第 6 期末	第 7 期末	増減
--	--------	--------	--------	--------	--------	--------	----

個人会員

正会員	7304	7540	7610	8021	8118	8184	+ 66
準会員 (学部生以下)	392	392	410	418	663	956	+ 293
大会会員	634	665	699	1061	703	518	- 185

団体会員

	49	50	50	50	50	49	-1
--	----	----	----	----	----	----	----

*日本陸水学会 10 月 6 日退会

賛助会員

	1	1	2	2	6	7	+ 1
--	---	---	---	---	---	---	-----

平成 30 年度 事業計画書

自 平成 30 年 4 月 1 日

至 平成 31 年 3 月 31 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合

〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル 4 階
電話：03-6914-2080 Fax：03-6914-2088

平成30年度事業計画書

公益社団法人第8期（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

平成30年(2018年)度は、公益社団法人日本地球惑星科学連合(以下、「連合」という。)の目的として定款に定める、「我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表し、国際連携及び社会への情報発信、関連分野の研究発表及び情報交換を行い、学術及び科学技術の振興等に寄与することを目的とする活動」を推進する。特に、日本地球惑星科学連合大会とジャーナル出版と連合の核心的活動と位置づけ、「連合」が参加学会と共同出版する「Progress in Earth and Planetary Science」がWeb of Scienceに登録されることもあり、大会と出版事業の活動を継続的に発展させる。

平成30年度は、MOUを結んでいるAGU(アメリカ地球物理連合)、ヨーロッパ地球惑星科学連合(EGU)、アジア太平洋地球科学学会(AOGS)と、共同セッションなどの開催を通じて組織間の国際連携を一層強化して、地球惑星科学の更なる国際化の展開と発展を目指す。

I. 事業の概要

1. 地球惑星科学に関わる研究発表会及び国際会議等の開催

(1) 日本地球惑星科学連合 2018 年大会 (JpGU Meeting 2018) の開催

地球惑星科学に関する学理及びその応用に関する研究発表を通じて、地球惑星科学の進歩と普及を図ることを目的に、当該科学に関連する研究、教育に携わる、あるいは関心を持つ全ての人々を対象として、公開による学術大会を開催し、関連分野の研究発表と情報交換の場を設ける。また、地球惑星科学に関連した研究教育機関、学協会、民間企業からの最新の情報や、各種プロジェクトの成果を大会参加者に紹介するための展示を設けるとともに、学術研究及び教育に有益な、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示を行う。

□ 日本地球惑星科学連合 2018 年大会 (JpGU Meeting 2018)

会 期：2018 年 5 月 20 日(土)～24 日(木)5 日間

場 所：幕張メッセ (国際会議場、国際展示場 7 ホール)、東京ベイ幕張ホール

大会委員長：齋藤 文紀 (北海道大学)

主 催：公益社団法人日本地球惑星科学連合

後 援：46 団体 (日本学術会議、文部科学省、国土交通省 国土地理院、気象庁 気象研究所、気象庁 地磁気観測所、国土交通省 海上保安庁、国立教育政策研究所、地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 地質研究所、独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構、独立行政法人 国立科学博物館、国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構、国立研究開発法人 海洋研究開発機構、国立研究開発法人 科学技術振興機構 日本科学未来館、国立研究開発法人 建築研究所、国立研究開発法人 国立環境研究所、国立研究開発法人 産業技術総合研究所、国立研究開発法人 情報通信研究機構、国立研究開発法人 森林総合研究所、国立研究開発法人 土木研究所、国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門、国立研究開発法人 物質・材料研究機構、国立研究開発法人 防災科学技術研究所、国立研究開発法人 理化学研究所、大学共同利用機関法人 高エネルギー加速器研究機構、大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立極地研究所、大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 統計数理研究所、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所、一般社団法人 全国地質調査業協会連合会、一般社団法人 電子情報通信学会、一般社団法人 東京都地質調査業協会、一般社団法人 日本機械学会、一般社団法人 日本航空宇宙学会、一般社団法人 日本分析機器工業会、一般財団法人 電力中央研究所、一般財団法人 日本宇宙フォーラム、一般財団法人 日本地図センター、公益財団法人 地震予知総合研究振興会、公益財団法人 地球環境産業技術研究機構、公益財団法人 深田地質研究所、公益社団法人 日本測量協会、公益財団法人 ちば国際コンベンションビューロー、千葉市、千葉県教育委員会、千葉市教育委員会)

協 賛：7 学協会 (公益社団法人日本天文学会、公益社団法人土木学会、公益社団法人日本地震工学会、公益社団法人日本地すべり学会、公益社団法人地盤工学会、公益社団法人砂防学会、日本高圧力学会、日本サンゴ礁学会)

開催セッション数：236

カテゴリー別	開催数
U: ユニオンセッション	8
O: パブリック	7
P: 宇宙惑星科学	23
A: 大気水圏科学	45
H: 地球人間圏科学	30
S: 固体地球科学	67
B: 地球生命科学	10
G: 教育アウトリーチ	5
M: 領域外・複数領域	41
計	236

発表論文数：5000 件（概算、予定）

参加者数：8000 人（見込み）

展示企画（ブース数）：団体展示（70）、書籍出版関連商品（30）、大学インフォメーションパネル（12）、学協会エリア個別デスク（13）、パンフレットデスク展示（7）

「スペシャルレクチャー」の開催

学部生や院生を主たる対象として、連合大会会期中の昼食時にスペシャルレクチャーをシリーズで開催する。異分野の聴衆を対象に、「わかりやすい」内容となる講演会を開催する。

期 日： 5月20日（土）～5月24日（木）

場 所： 会場内

主 催： 大会運営委員会

内 容： 本年度は、第2回地球惑星科学振興西田賞受賞者による記念講演を行う。

（2）「高校生によるポスター発表」の開催

将来を担う高校生を対象に、授業や課外活動で行った地球惑星科学に関連する研究や学習の成果を研究者に対して発表するため、連合大会初日（5月20日、日曜日）にポスター発表会を開催する。今年度は、前年度程度（80件）の発表を予定している。

（3）地球惑星科学関連の一般公開プログラムの開催

一般市民を対象として、地球惑星科学に関連した研究成果の広報・普及活動を通して地球惑星科学の普及を図るために、連合大会会期中に一般公開プログラムを開催する。

また、秋季（11月予定）に一般市民（とくに高校生）を対象として、「日本地球惑星科学連合 秋の公

開講演会 2018」を開催予定である。

□ 連合大会パブリックセッション（予定）

これからの高校における地球惑星科学教育―「地理総合」と「地学基礎」―

高校生によるポスター発表

地球・惑星科学トップセミナー

研究者のためのメンタルケアとコミュニケーション術

キッチン地球科学 ―手を動かして頭脳を刺激する実験―

ジオパークがつなぐ地球科学と社会 ―10年の成果と課題―

地球科学とアートの協働・共創

□ 中高生のための「NASA―JAXAハイパーウォール講演会」5月20日（日）、23日（水）

□ 日本地球惑星科学連合 秋の公開講演会 2018

期 日：2018年11月（予定）

場 所：東京大学理学部小柴ホール（予定）

主 催：広報普及委員会

内 容：地球惑星科学分野の最新の研究成果を、高校生を中心に広く一般市民向けにわかりやすく紹介・解説する公開講演会。（内容は未定）

（4）地球惑星科学関連の研究教育機関・学協会・プロジェクト・民間企業の紹介および展示、地球惑星科学関連書籍・機器・資料の展示・頒布

地球惑星科学に関連した教育機関、学協会、ならびに各種プロジェクトについて、関係者のみならず、高校生を含む一般に紹介・広報することを目的に、プロジェクトを推進する諸機関、団体に対して連合大会会場にて展示活動を支援する場を設ける。

地球惑星科学に関連する書籍、資料の公刊物を多数展示し、頒布するための場を設けて、地球惑星科学関連の研究、教育に携わる人々や、高校生を含む一般の方々の利用促進をはかる。

2. 地球惑星科学に関わる研究成果の刊行及び教育普及

我が国の地球惑星科学及び関連科学の振興と普及を目的として、地球惑星科学に関する学理及びその応用に関する知識や情報の交換の促進を図るために、連合学術誌の出版事業とともに、連合加盟学協会の出版事業の広報普及の支援を行う。

（1）連合学術誌の出版の高度化

平成26年4月に初版が発刊された連合のオープン・アクセス（OA）電子ジャーナル”Progress in Earth and Planetary Science (PEPS)”のさらなる国際情報発信力強化を図る。ジャーナルの世界的評価指標であるClarivate Analytics（旧Thomson Reuter）のIF（インパクト・ファクター）とElsevierのScopusへの採録が決定し、H30年度に最初の数値が発表される。これを受けて、申請中の日本学術振興会の平成30年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）とジャーナル予算を有効に活用し、ジャーナルの認

知度を高め、投稿及び引用を促進するための施策をさらに推進する。具体的には、国内外の国際会議へのブース出展やパンフレットへの広告掲載などを通じて強力な広報活動を実施するとともに、出版論文を効果的に紹介する仕掛け作りにより引用促進に取り組む。また、2018年連合大会を活用して①コンビーナ推薦の優秀発表への投稿依頼、②ジャーナル国際セッションの旅費の支援と原稿依頼、③科学的にホットなテーマを取り上げて論文の投稿を呼びかける SPEPS の推進をより強力に進めていく。また、平成28年度に投稿受付を開始したデータパブリッシング(Paper with Full Data Attached)の投稿推進と引用促進に取り組む。さらに、外国人編集委員を増強して出版体制の強化を図る。

(2) 連合加盟学協会による学術誌出版の広報普及支援

連合加盟学協会による十数種の国際誌出版を数えると、全体としては AGU、EGU に匹敵していることに鑑み、国際誌を出版する学協会に連合ロゴの掲載依頼をさらに働きかけ、共同で学術誌の広報普及活動を行う。具体的には、連合のホームページ上での紹介、海外で開催される AGU、EGU 等の国際学術大会で出展する連合ブースにおける展示紹介など、日本の地球惑星科学コミュニティーを代表して、科学的知見に関する情報の発信をより強化する。

(3) ニュースレター誌「Japan Geoscience Letters (JGL)」の発行

連合の会員（個人・団体会員）及び、科学館、博物館、高等学校教員、関連企業等の関係者や一般市民を対象として、地球惑星科学の研究成果の広報・普及を目的としてニュースレター誌「JGL」を年4号（予定）定期発行する。

発行部数 : 26,000～30,000 部

配布先 : 会員（個人、団体）

国立国会図書館

科学館（日本科学未来館、日本科学技術館他）

博物館（国立科学博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館他）

高等学校（東京都立戸山高等学校、千葉県立船橋高等学校、早稲田大学高等学院他）

関連企業（NPG ネイチャーアジア・パシフィック、株式会社タイロス他）

(4) ウェブサイト、メールニュースを活用した広報・普及事業

連合の会員及び一般市民を対象に、ウェブサイトや毎月発行のメールニュース等を通して、地球惑星科学に関連するニュース、国内外の学会・シンポジウム・研究集会・一般公開イベントや求人・公募等の情報を配信する。メールニュースの内容を一層充実させ、毎月定期号を配信するほか、ウェブサイトによる情報発信及びコンテンツの充実を図り、会員及び一般市民が地球惑星科学関連情報にアクセスしやすい環境を提供する。

3. 地球惑星科学コミュニティーにおける意見集約とこれに基づく提言

地球惑星科学コミュニティーの意見を集約するとともに、学協会や日本学術会議から提案される重要な課題、及び国及び社会からの諸要請に対応するために、以下の活動を行う。

(1) 学協会長会議の開催

国内の地球惑星科学及び関連分野の研究者を対象に、学協会長会議を年に2回開催して、地球惑星科学コミュニティの意見集約を行うとともに、自然科学に関わる国内外の情勢についての情報交換を行う。連合理事会からの諮問、及び学協会や日本学術会議から提案される重要な課題について議論し、意見集約と対外的情報発信を行う。

□ 第16回学協会長会議

期日：2018年5月23日（火）12：30～13：30（予定）

場所：幕張メッセ国際会議場（予定）

□ 第17回学協会長会議

期日：2018年10月（予定）

場所：東京大学（東京都文京区）（予定）

(2) 地球惑星科学コミュニティの意見集約

国及び社会一般からの諸要請に基づき、地球惑星科学コミュニティの意見集約と、コミュニティへの情報伝達を行う。特に、日本学術会議が発出する声明を連合ウェブやメールニュース、関連メーリングリストを通じて地球惑星科学コミュニティへの周知をサポートする。

また、学術会議からの依頼に基づき連合大会会期中に全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会を開催する。

□ 全国地球惑星科学系専攻長・学科長懇談会

期日：連合大会 会期中

場所：幕張メッセ国際会議場（予定）

4. 地球惑星科学に関わる外国学協会との連携と国際プロジェクトの推進

我が国の地球惑星科学コミュニティーを代表して、地球惑星科学の国際的な発展に寄与することを目的に、地球惑星科学に関する国際的な研究協力と交流活動の推進を図る。

(1) 地球惑星科学に関わる国際学協会との連携及び協力

ヨーロッパの EGU、米国の AGU、ならびにアジアの AOGS 等の国際的な学協会と連携協力し、地球惑星科学に関わる国際会議等の企画、開催、国際的プロジェクトの推進等を行う。

開催日	出展大会名	開催場所
2018年4月8～13日	EGU General Assembly 2018	ウィーン（オーストリア）
2018年6月3～8日	AOGS 15th Annual Meeting	シンガポール
2018年12月1～14日	AGU 2018 Fall Meeting	ワシントン D.C.（アメリカ合衆国）

(2) 国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習を促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学（地学・地理）オリンピックを連合の共催事業として行う。

□ 第12回国際地学オリンピック

期日：2018年8月8日～17日

場所：カーンチャナブリ（タイ）およびその周辺

□ 第15回国際地理オリンピック

期日：2018年7月31日～8月6日

場所：ケベック（カナダ）およびその周辺

5. 地球惑星科学知見の社会還元

地球惑星科学の研究成果を統合的な形で社会へ還元し、地球惑星科学の振興と教育・普及の促進に向け科学的提言を発信する。

(1) 複合的自然災害への対応と科学的提言の発信

地球上で起こる自然災害事象の複合化に備え、地球惑星科学の総合的、かつ蓄積された研究成果を社会へ還元することを目的として、風水害、地震、火山、津波などの自然災害などの統合的な対策にむけた科学的提言を行う。

(2) 複合的自然災害リテラシーの普及

複合的自然災害に対して、国民の基礎知識を高め、突発的災害によるリスクを最小化することを目指し、自然災害に関する大量の情報の中から必要なものを探し、情報を加工して意思決定するための基礎的な知識や技能（複合的自然災害リテラシー）の普及を支援するための活動を行う。

6. セクションサイエンスボードおよび委員会活動

広く国内外の地球惑星科学関連分野の研究者を対象に、地球惑星科学の推進と学術の推進振興を図ることを目的として、ユニオンサイエンスボード及びセクションサイエンスボード、ならびに各委員会の活動を推進する。

(1) サイエンスボードの活動

□ 宇宙惑星科学セクション

宇宙惑星科学セクションでは、昨年度に引き続き、当該分野の研究の長期的なビジョンと日本の果たすべき役割について、学術会議のマスタープラン及び夢ロードマップ、JAXA の宇宙科学 RFI (工程表) を中心に議論を進め、関連諸学会及び連合の他のセクションとの協力により意見をまとめる。その他の活用予定は以下の通り：

- ・連合大会において、宇宙惑星科学セクションは半数が国際セッションであり、その多くが AGU との合同セッションとなった。今後もセッションの国際化は強化する方向で努力を続ける。
- ・連合大会において、昨年引き続き、学生優秀発表を選考して表彰する。PEPS 誌、及びこれまで深く関与してきた EPS 誌を支援する。連合の顕彰、主催講演会などに候補者を推薦する。
- ・セクションの活動のために、連合大会期間中にセクションボード会議を行うほか、関連学会の秋季講演会などの機会を利用してセクションボード会議を頻繁に開催する。

□ 大気水圏科学セクション

1) 連合大会に関する活動

- ・2018 年度連合大会時にセクションボードメンバー及び代議員を招集しセクションボードミーティングを開催する。
- ・2018 年度連合大会の大気水圏科学関連セッションへの積極的な参加を会員に呼びかけ、大会の成功につなげる。また、必要に応じて旅費・参加費の援助を行う。
- ・大気水圏科学分野に関係する研究集会にセクションとして共催または協賛し開催を援助する。

2) 夢ロードマップ及び大型研究計画に関する活動

- ・セクションの夢ロードマップ改訂および大型研究計画についての検討を進める。

3) 大気水圏科学分野に関係する研究集会やジャーナル出版活動の支援

- ・大気水圏科学分野に関係する研究集会にセクションとして共催または協賛し開催を援助する。
- ・水文分野 5 学会合同のレター誌「Hydrological Research Letters」の出版に関わる協議会に参加し、活動を支援する。

4) アウトリーチ活動

- ・セクションのウェブページを更に充実させ、セクションの活動を社会に発信する。

地球人間圏科学セクション

- ・セクション活動の活性化にむけて、地球人間科学セクションにおいて多分野の研究者をセクションボードに迎えることで充実させる。
- ・2018年度の連合大会においてセクションボードミーティングを開催し、学生優秀発表賞選考に関わる議論を行い、表彰活動を行う予定である。
- ・2018年連合大会においてAGUならびにEGUとのジョイントセッションを行い連合とAGU・EGUとの協働につなげる。
- ・2018年開催の連合大会開催に向けアブトラクト申請を呼びかけ大会時の地球人間圏科学セクションの充実を図る。
- ・地球人間圏科学セクションのボードメンバーのミーティングを年度末におこない、翌年度の活動方針を話し合う機会を設ける。
- ・日本学術会議・地球惑星科学委員会の会活動ならびに同委員会のもとにおかれている地球人間圏分科会との連携(シンポジウム、ロードマップ、大型研究計画など)をはかる。
- ・ジオ・ユニオン活動(IGU大会、ICA大会、INQUA大会、IAG大会など)との連携を進める。

□ 固体地球科学セクション

- ・代議員の更新に伴い、セクションボードのメンバーを拡充し、セクションの活動を新たなメンバーとともに活性化する。
- ・固体地球科学セクションの代議員にセクションボードの情報流通を改善するなど努め、代議員とセクションボードの意思疎通を改善する。
- ・固体地球科学セクションボードミーティングを開催する。
- ・地球深部科学、ハードロック掘削科学の2つのセクション・フォーカスグループのミーティングを開催する。
- ・固体地球科学セクションが財政支援する日本での国際ワークショップにおいて、海外から招聘研究者2名の旅費と3名の参加費を支援する。
- ・新たに発足したハードロック掘削科学フォーカスグループのキックオフ・セッションにおける招聘研究者の旅費を支援する。
- ・セクションの内部構造を構築するために、新たなフォーカスグループを創設する。
- ・このフォーカスグループが継続的に連合大会で国際セッションを提案し、さらに海外の組織と連携した国際会議を共催することを支援する。このような支援を通して、2018年以降の連合大会において国際セッションの継続的な提案を可能にする。
- ・英語版を含めてホームページの充実を検討する。
- ・セクションの褒賞制度を充実させるために、連合の顕彰委員会と緊密に連携して新たな褒賞の可能性を検討する。

□ 地球生命科学セクション

- ・連合大会において地球生命科学関連セッション(国際セッション含む)を開催する。
- ・連合大会期間中にサイエンスボードのビジネスミーティングを行う。
- ・連合大会の地球生命科学関連セッションで学生優秀発表賞の審査を行う。

- ・地球生命科学振興の中長期計画の策定を行う。
- ・「夢ロードマップ」の改訂を行う。
- ・地球生命科学セクションの若手メンバーの国際的活動の支援を行う。
- ・PEPS への優れた地球生命科学関連の論文投稿を促進する。

(2) 顕彰関連活動

連合大会における「学生優秀発表」の表彰を行う。連合大会における学生優秀発表賞の表彰をセクション単位で実施する。学生優秀発表賞のシステムの充実を図り、審査用 WEB システムを利用して、学生優秀発表表彰制度の安定的な運営をめざす。

- ・連合フェロー顕彰：2018 年度フェローを顕彰する。2019 年度フェロー候補者を募集し審査する。
- ・日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）：2018 年連合大会において第 46 回受賞者の表彰を行う。
- ・学生旅費助成制度：昨年に引き続き、大会参加のための学生旅費助成の審査を行う。

(3) 各委員会活動

各委員会では年間を通じて委員会を随時開催するとともに、担当理事を通じて理事会への活動報告を行い、委員会と理事会の意志疎通をはかる。特に今年度は以下の委員会活動を推進する。

□ 総務委員会

公益社団法人の円滑な運営と体制強化のための、諸規則の整備を図る。特に連合事務局の就業規則や給与関連規則等を整備し、事務局職員の勤務にフレックスタイム制度の導入を検討する。

□ 財務委員会

- ・事務局職員の待遇規則の整備に伴って、財務面での適切な対応を行う。
- ・中長期的に安定的に日本地球惑星科学連合を運営する上での財務面の課題と対策を検討する。
- ・平成 30 年度決算書、平成 31 年度予算書を策定する。

□ 大会運営委員会

連合大会の参加者増を目指し、満足度の高いプログラムや企画の充実にむけた方策を企画検討する。2018 年大会の準備を進める。

□ 情報システム委員会

ORCID について会員にさらに情報を提供しつつ、連合で有効活用するための検討と作業を継続する。AGU との連携を人的交流を含めて強化しつつ、オープンサイエンスを促進するための活動を継続する。JpGU-AGU Joint Meeting に向けて改修されたオンラインシステムの改良を継続する。

□ グローバル戦略委員会

- ・2018 年連合大会において AGU との連携の活性化を図る。
- ・同大会で International Mixer Luncheon を開催する。昨年大会に引き続き連携海外組織とミーティングを開催し連携力強化を図る。

- ・2018年連合大会の開催準備を行う。
- ・EGU・AOGS・AGU等の連携海外組織の大会にブース出展をし、連合、ジャーナル、加盟学協会の活動紹介をする。
- ・発信力強化のため、連合ホームページにおける英語ページのより一層の充実をはかる。またパブリックアナウンスメントがある場合、翻訳し掲載する。

□ 教育検討委員会

(1) 地球惑星科学関連の一般公開プログラムの開催

一般市民を対象として、地球惑星科学に関連した研究成果の広報・普及活動を通して地球惑星科学の普及を図るために、連合大会会期中に一般公開プログラムを開催する。

また、秋季（11月予定）に「秋の公開講演会」を開催予定である。

- ・これからの高校における地球惑星科学教育―「地理総合」と「地学基礎」―

期 日：5月20日（日）

主 催：教育検討委員会

内 容：新しい学習指導要領で必修科目となる「地理総合」の内容や予想される学習上の問題、「地学基礎」の現状と課題、「地理総合」「地学基礎」の連携を検討し、効果的な地球惑星科学教育の方策を聴衆を交えての議論する。

(2) 学校教育／社会教育に関する活動

- ・教育検討委員会を通じて、各学協会の教育に関する情報共有を図る。
- ・教育検討委員会、理数系学会の活動内容、教育上の諸問題を各学協会に提供する。
- ・次期高等学校学習指導要領改訂後の「地学基礎」「地学」カリキュラム案を作成し、教員研修や教員養成に利用できるよう準備する。
- ・教科書にて用いられている用語に起因する課題の解決に向けた取り組みを、日本学術会議 地球惑星科学委員会 地球惑星科学人材育成分科会 地学地理教育用語検討小委員会と引き続き協同して行う。その他にも、日本学術会議と連携し、小～高等学校・大学・大学院教育に関わる課題解決等に向け、平成29年度に継続して協力をを行う。
- ・Future Earth や ESD (Education for Sustainable Development) において地球惑星科学がリーダーシップを取れるような体制作りへの協力を引き続き行う。
- ・地球惑星科学教育が十分に行われていない地域の学校・教員への支援を実習帳等を用い行うと共にホームページ上で実験実習の情報を公開する。
- ・京都大学防災研究所研究集会「地学教育の展望―来たるべき南海トラフ地震に備えて―」開催への協力をを行う。
- ・理数系学会教育問題連絡会へ引き続き参加し、学校での理数・情報教育の改善に向けた対応に引き続き努める。また、共催での理数系教育シンポジウムの開催を企画し実施する。

(3) 国際科学（地学・地理）オリンピック活動支援

高校生を対象に、地球惑星科学への認識を高めるとともに地球惑星科学の学習を促進と若年層による国際交流を深めることを目的に、国際科学（地学・地理）オリンピックを連合の共催事業として行う。

・第12回国際地学オリンピック

期日：2018年8月8日～17日

場所：カーンチャナブリ（タイ）

（国内選抜は、2017年12月17日予選（マークシート）、2018年3月11日～13日本選（記述式）、2018年3月13日～15日代表選抜（面接等）にて実施済）

・第15回国際地理オリンピック

期日：2018年7月31日～8月6日

場所：ケベック（カナダ）およびその周辺

（国内選抜（国内大会）は、2017年12月16日第1次選抜（マルチメディアテスト）、2018年2月18日第2次選抜（記述式テスト）、2018年3月10日～11日第3次選抜（フィールドワークテスト）にて実施済）

（4）国際的な地球惑星科学教育の普及と交流

- ・AGIが推奨しているEarth Science Week を10月13日～14日に静岡県にてEarth Science Week in Japan として実施する。講演会・巡検などの開催予定。

（5）その他

- ・教員免許更新講習を開催する。

□ 広報普及委員会

- ・2018年連合大会で、パブリックセッション「高校生によるポスター発表」を開催予定
- ・2018年連合大会で、パブリックセッション「地球・惑星科学トップセミナー」を開催予定、映像を記録して動画配信予定
- ・2018年連合大会で、中高生向けに「NASA-JAXA ハイパーウォール講演会」を開催し、その宣伝及び運営サポートを行う予定
- ・2018年連合大会で、いくつかのセッション及びイベントをライブ中継予定
- ・2018年連合大会で、スチルカメラマンを雇用して会場の様子を記録・公開予定
- ・2018年連合大会で、記者会見用ブース及びメディア用作業スペースを作成・設置予定
- ・2018年連合大会で、日本地球惑星科学連合の展示ブースを開設予定
- ・2018年連合大会で発表される論文の中からハイライト論文を採択予定
- ・2018年連合大会の概要及びハイライト論文などのプレスリリースを行う予定
- ・2018年連合大会パブリックセッション等用に日本地球惑星科学連合ノベルティグッズを作成予定
- ・2018年12月頃に「日本地球惑星科学連合秋の公開講演会2018」を開催予定、その映像を記録して動画配信予定
- ・連合ニュースレター誌JGLを年間4号編集・発行予定

- ・2018年連合大会プログラム日本語版をJGL春号の一部として掲載・発行予定
- ・2018年度連合フェロー受賞者記念特集原稿の編集し、JGL及び連合ウェブに掲載予定
- ・連合メールニュース定期号を年間12号、程度配信予定
- ・連合ウェブサイトの運用予定
- ・連合ウェブサイトを活用した広報・普及事業（公開講演会等の動画配信を含む）を行う予定
- ・連合ウェブサイト英語版を作成・拡充予定
- ・2018年8月ころに広報普及委員会を開催予定
- ・2018年大会で開催するパブリックセッションの採択に向けた検討をパブリック小委員会で行う。

□ ジャーナル企画経営委員会

- ・ジャーナルの中長期経営戦略（企画、財政、方針など）及び他誌との協調・発展について、随時委員会を開催して検討する。また、将来的に補助金なしで独立した出版活動を行うための方向性を検討する。

□ ジャーナル編集委員会

- ・編集長会議と全体編集会議を開催し、論文投稿及び引用を促進するための施策、編集方針や問題点の解決策について検討する。

□ ダイバーシティ推進委員会

- ・キャリアパスアンケートの実施（1月～5月）、結果速報の配布（連合大会時）、ウェブ等での結果報告（通年）
- ・2018年連合大会でのパブリックセッションの開催
- ・2018年連合大会でのキャリアパス支援ブースの運営
- ・2018年連合大会での保育室の運営
- ・男女共同参画学協会連絡会対応若手研究者育成WG活動（通年）
- ・女子中高生夏の学校への参加（企画委員としても参画し、実験実習、ポスター展示、進路相談、国際交流などの多様な企画を協賛予定）
- ・キャリア関係シンポジウムの開催（10月～12月予定）
- ・委員会ウェブサイトの整備（通年）
- ・ダイバーシティ推進委員会の開催（1-2月予定）
- ・ハラスメントに関する取り組みについての議論（通年）

□ 環境災害対応委員会

環境・災害問題に関する重要課題を調査し、大規模災害発生時の連合の緊急対応方策及び各学協会の連携方法を確立すると共に、連合大会においてセッションを開催する。防災学術連携体への対応を行う。

□ 顕彰委員会、学生優秀発表賞小委員会

- ・日本地球惑星科学連合の顕彰活動に関連する事案を検討し、顕彰制度の規則などの設計ならびに運営に関する議論を行い、理事会へ答申する。

- ・顕彰事業の一環として、連合大会における学生旅費助成審査を行う。
- ・顕彰委員会内に設けた学生優秀発表賞小委員会により、連合大会における学生優秀発表賞制度を運営する。

□ フェロー審査委員会

連合大会でのフェロー表彰に向けて、フェローを選考し、理事会に推薦する。

□ 地球惑星科学振興西田賞審査委員会

本賞の審査を隔年で行う。2018 年度は第 3 回受賞候補者の募集および審査を行う。また第 3 回受賞者の表彰を連合大会にて開催するための準備を行う。

□ 日本地球惑星科学連合学術賞（三宅賞）審査委員会

本賞の審査を隔年で行うが 2018 年度は該当年度ではない。本年度は第 4 6 回受賞者の表彰を連合大会にて開催する。

平成30年度 収支予算書(案) 総会用

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

公益目的事業会計

(単位:円)

科 目	平成29年度予算額	平成30年度収支予算書	補正 平成30年度収支予算書
一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	1,600	1,600	1,600
基本財産受取利息	1,600	1,600	1,600
特定資産運用益	2,000	2,000	2,000
特定資産受取利息	2,000	2,000	2,000
受取会費	12,100,000	12,300,000	12,300,000
当年度会費	12,100,000	12,300,000	12,300,000
事業収益	167,821,002	161,796,258	161,796,258
学術大会収益	167,321,002	161,146,258	161,146,258
大会参加料収入	115,941,792	109,332,065	109,332,065
投稿料収入	21,629,160	19,345,012	19,345,012
団体展示料収入	23,976,000	25,920,000	25,920,000
大学インフォメーション収入	907,200	700,000	700,000
書籍展示収入	1,620,000	1,400,000	1,400,000
パンフレットデスク収入	75,600	61,020	61,020
会議室使用料収入	2,000,000	2,000,000	2,000,000
懇親会収入	450,000	900,000	900,000
学協会出展料	421,250	488,160	488,160
その他	300,000	1,000,000	1,000,000
刊行事業収益	500,000	650,000	650,000
JGL広告収入	500,000	650,000	650,000
メールニュース		0	
受取補助金	56,938,260	35,838,260	838,260
25年度科学研究費補助金	838,260	838,260	838,260
29年度科学研究費補助金	42,100,000		
30年度科学研究費補助金		35,000,000	
千葉県国際会議開催補助金	7,000,000	0	
千葉市国際会議開催補助金	5,000,000	0	
千葉国際コンベンションビューロー	2,000,000	0	
受取寄付金	0	5,300,000	5,300,000
地球惑星科学振興西田賞	0	5,000,000	5,000,000
会員寄附	0	300,000	300,000
雑収益	30,000	21,000	21,000
受取利息	20,000	18,000	18,000
その他	10,000	3,000	3,000
指定正味財産より			
	0	0	0
経常収益計	236,892,862	215,259,118	180,259,118
(2) 経常費用			
事業費	252,469,306	213,970,320	190,470,320
給料手当	30,190,000	27,865,000	24,575,000
法定福利費	4,670,000	3,267,000	2,927,000
退職給付費用		510,000	510,000
臨時雇用賃金	6,047,000	3,744,000	4,034,000
会議費	10,043,200	7,785,400	7,405,400
旅費交通費	34,998,000	25,733,830	18,603,830
通勤費	1,910,000	1,948,830	1,738,830
交通費(学生旅費補助含)	33,088,000	23,785,000	16,865,000
通信運搬費	3,856,000	3,789,000	3,919,000
減価償却費	5,508,000	6,550,000	6,550,000
消耗什器備品	300,000	100,000	100,000
消耗品	4,820,600	4,376,000	4,106,000
保守費	4,200,000	5,400,000	5,400,000
印刷製本費	17,601,000	18,325,000	17,925,000
プログラム編集費	500,000	500,000	500,000
プログラム印刷製本費	2,200,000	3,284,000	3,284,000
ポスター印刷費	100,000	280,000	280,000
JGL印刷費	4,916,000	4,996,000	4,996,000
ジャーナル印刷費	8,000,000	8,400,000	8,000,000
その他	1,885,000	865,000	865,000

図書費	100,000	300,000	300,000
出展費	200,000	270,000	270,000
賃借料	75,153,279	64,998,940	64,248,940
事務所賃借料	3,656,465	3,710,000	2,960,000
事務機賃借料	328,536	250,000	250,000
大会 会場賃借料	45,999,380	36,018,000	36,018,000
大会(設営・設備・備品等)	24,768,898	24,157,440	24,157,440
その他	400,000	863,500	863,500
諸謝金	1,484,000	1,638,000	1,488,000
租税公課	3,330,000	3,570,000	3,570,000
支払手数料	4,320,000	4,303,000	4,303,000
支払賛助金	1,028,000	970,000	970,000
委託費	36,070,427	18,622,000	11,912,000
システム関係	5,047,200	3,000,000	3,000,000
その他	31,023,227	15,622,000	8,912,000
表彰費	0	5,000,000	5,000,000
雑費	665,000	870,000	870,000
保険料	84,800	83,150	83,150
広告宣伝費	7,800,000	5,900,000	1,400,000
管理費	11,709,502	11,102,000	11,102,000
給料手当	5,700,000	5,300,000	5,300,000
法定福利費	30,000	300,000	300,000
退職給付費用	0	42,000	42,000
会議費	0	30,000	30,000
旅費交通費	1,606,000	1,600,000	1,600,000
通勤費	306,000	300,000	300,000
交通費	1,300,000	1,300,000	1,300,000
通信運搬費	150,000	150,000	150,000
消耗什器備品	100,000	100,000	100,000
消耗品費	224,400	250,000	250,000
賃借料	879,102	950,000	950,000
事務所賃借料	736,438	800,000	800,000
事務機賃借料	92,664	100,000	100,000
その他	50,000	50,000	50,000
諸謝金	1,288,000	1,300,000	1,300,000
租税公課	260,000	260,000	260,000
保守費	1,012,000	300,000	300,000
支払手数料	360,000	400,000	400,000
雑費	100,000	120,000	120,000
経常費用計	264,178,808	225,072,320	201,572,320
当期経常増減額	-27,285,946	-9,813,202	-21,313,202
一般正味財産増減額			H30年度赤字額について
一般正味財産期首残高			単年度では約2100万円の赤字
一般正味財産期末残高			予算となっていますが、昨年度繰
II 指定正味財産増減の部			越金及び学生旅費補助準備資
受取補助金			金により、実質的赤字は約1600
受取寄付金(西田賞)			万円という予算になります。更に
特定資産運用益			各委員会やセクションに約
一般正味財産への振替額			10%、総額で約600万円の節約
当期指定正味財産増減額			を依頼しており、最終的に980万
指定正味財産期首残高			円程度の赤字に納めることが可
指定正味財産期末残高			能と考えております。また来年度
III 正味財産期末残高			以降は、ジャーナル支出のさらなる
			600万円程度の削減など財務
			状況の改善に努め収支均衡を目指
			します。

貸借対照表

平成30年 3月31日現在

公益目的事業会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現 金	82,352,752	107,125,595	-24,772,843
未 成 事 業 支 出	37,025	15,000	22,025
預 前 払 費 用 金	16,580,256	18,653,103	-2,072,847
預 前 払 費 用 金	2,483,633	3,312,918	-829,285
前 払 費 用 金	282,742	282,742	0
仮 払 費 用 金	5,562,464	325,980	5,236,484
流動資産合計	107,298,872	129,715,338	-22,416,466
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定 期 預 金	5,000,000	5,000,000	0
基本財産合計	5,000,000	5,000,000	0
(2) 特定資産			
学 生 旅 費 補 助 準 備 資 金	12,000,000	0	12,000,000
地球惑星科学に関わる外国学協会との連携資	0	4,000,000	-4,000,000
地球惑星科学振興西田賞準備資金	10,000,000	5,000,000	5,000,000
特定資産合計	22,000,000	9,000,000	13,000,000
(3) その他固定資産			
什 器 備 品	187,547	273,709	-86,162
ソ フ ト ウ ェ ア	19,016,637	15,562,036	3,454,601
保 証 金	661,650	661,650	0
その他固定資産合計	19,865,834	16,497,395	3,368,439
固定資産合計	46,865,834	30,497,395	16,368,439
資産合計	154,164,706	160,212,733	-6,048,027
II 負債の部			
1. 流動負債			
未 払 金 用 金	8,007,176	9,978,342	-1,971,166
未 成 事 業 費 受 入	2,960,942	2,941,294	19,648
前 受 業 費 会 入	38,932,080	45,476,220	-6,544,140
預 前 払 費 用 金	6,018,660	6,027,000	-8,340
仮 払 費 用 金	792,434	383,629	408,805
未 払 消 費 税 等	2,205,080	2,809,896	-604,816
流動負債合計	61,997,572	70,405,081	-8,407,509
負債合計	61,997,572	70,405,081	-8,407,509
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	10,628,696	6,466,956	4,161,740
2. 一般正味財産			
(うち基本財産への充当額)	81,538,438	83,340,696	-1,802,258
正味財産合計	(5,000,000)	(5,000,000)	0
負債及び正味財産合計	92,167,134	89,807,652	2,359,482
負債及び正味財産合計	154,164,706	160,212,733	-6,048,027

正味財産増減計算書

平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで

公益目的事業会計

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	500	1,253	-753
特定資産運用益	885	255	630
受取当座利息	885	255	630
事業収入	12,225,000	11,419,000	806,000
学術大会収入	12,225,000	11,419,000	806,000
大会参加料収入	172,161,428	142,565,783	29,595,645
大会投稿料収入	171,183,928	141,635,783	29,548,145
団体展示料収入	117,454,180	96,754,040	20,700,140
大学インフォメーションパネル収入	21,426,120	17,119,480	4,306,640
書籍展覧会収入	24,528,000	22,571,780	1,956,220
パンフレットデスク収入	680,400	790,560	-110,160
会議室使用料収入	1,566,000	1,350,000	216,000
懇親会収入	86,400	54,000	32,400
学会協会の出展料	2,380,860	1,923,345	457,515
その他	997,040	409,818	587,222
刊行事業収入	572,400	432,000	140,400
JGL広告料収入	1,492,528	230,760	1,261,768
メールニュース広告収入	977,500	930,000	47,500
受取補助金等	977,500	690,000	287,500
25年度科学研究費補助金研究成果公開促進費	0	240,000	-240,000
千葉国際コンベンションビューロー助成金	56,938,260	35,642,802	21,295,458
28年度科学研究費補助金研究成果公開促進費	838,260	838,260	0
29年度科学研究費補助金研究成果公開促進費	2,000,000	0	2,000,000
千葉県国際会議開催補助金	0	34,804,542	-34,804,542
千葉市国際会議開催補助金	42,100,000	0	42,100,000
受取地球惑星科学振興西田賞	7,000,000	0	7,000,000
雑収入	5,000,000	0	5,000,000
受取利息	3,129,000	7,125,000	-3,996,000
その他	0	5,000,000	-5,000,000
経常収益計	3,073,000	2,125,000	948,000
(2) 経常費用	56,000	0	56,000
事業費	326,212	45,710	280,502
給法臨	821	2,079	-1,258
ホ一ムページ制作費	325,391	43,631	281,760
退会旅	244,781,285	196,799,803	47,981,482
交通	234,460,791	177,166,362	57,294,429
通減消保印	31,396,501	30,354,425	1,042,076
印刷製本費	3,726,946	2,094,211	1,632,735
図書	4,240,090	4,485,948	-245,858
図出賃	0	320,000	-320,000
事務	4,240,090	4,165,948	74,142
備機	600,000	0	600,000
手賃	8,476,532	5,596,716	2,879,816
福利	32,160,912	19,538,305	12,622,607
労務	1,918,971	1,799,385	119,586
賃借	30,241,941	17,738,920	12,503,021
借借	3,076,016	3,339,270	-263,254
借借	5,335,436	5,537,741	-202,305
借借	4,187,768	6,370,536	-2,182,768
借借	5,224,820	3,905,100	1,319,720
借借	14,354,342	11,464,836	2,889,506
借借	518,400	475,200	43,200
借借	3,648,240	2,153,952	1,494,288
借借	191,795	0	191,795
借借	3,935,305	4,293,129	-357,824
借借	4,650,301	3,637,228	1,013,073
借借	1,410,301	905,327	504,974
借借	136,420	1,512	134,908
借借	418,336	247,408	170,928
借借	70,611,101	42,251,234	28,359,867
借借	3,542,598	2,068,794	1,473,804
借借	291,330	340,470	-49,140
借借	41,198,888	23,487,730	17,711,158
借借	24,500,503	16,354,240	8,146,263
借借	1,077,782	0	1,077,782
借借	0	3,137,019	-3,137,019
借借	2,188,764	3,159,112	-970,348
借借	5,071,100	4,082,784	988,316
借借	5,979,860	4,949,934	1,029,926
借借	1,040,000	867,000	173,000
借借	27,028,188	13,177,477	13,850,711

財産目録

平成30年 3月31日現在

公益目的事業会計

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額			
(流動資産)							
(流動資産)	現金 預金	手元保管 当座預金 郵貯振替口座 普通預金 三菱東京UFJ銀行本郷支店 りそな銀行本郷支店 ゆうちょ銀行 みずほ銀行本郷支店 みずほ銀行本郷支店 千葉銀行東京営業部 三菱東京UFJ銀行本郷支店 科研費口座 地球惑星科学振興西田賞口 三井住友銀行小石川支店 地学ナビック	運転資金として 寄附金受取口座	133,388 742,016 742,016			
			運転資金として	81,477,348			
				57,125,072			
				4,658			
				487,178			
				8,192,819			
				3,342			
				11,497,601			
				2,620,986			
				2,258			
				1,543,434			
				37,025			
				16,580,256			
			未収金 未成事業支出金 学術振興事業 預け金 前払費用 仮払金	パシコ横浜	コピー使用料	37,025	
学術振興事業費用の前払い分 スプリンガー	16,580,256 2,483,633						
事務所賃借料の前払い分	282,742						
2021年大会予約金	5,562,464						
流動資産合計				107,298,872			
(固定資産)							
(固定資産)	基本財産 特定資産 その他固定資産	定期預金 定期預金(一般) 学生旅費補助準備資金 地球惑星科学振興西田賞準備資金 什器備品 ソフトウェア 保証金 学会センタービル	公益目的保有財産である	5,000,000 5,000,000 22,000,000 12,000,000 10,000,000			
			公益目的保有財産である	19,865,834			
			公益目的保有財産である	187,547			
			公益目的保有財産である	19,016,637			
			661,650				
			661,650				
			事務所の保証金	661,650			
			固定資産合計				46,865,834
			資産合計				154,164,706
			(流動負債)				
(流動負債)	未払金 未払費用 給料手当 通勤手当 健・厚保険料等 未成事業受入金 学術振興事業 前受会費 預り金 給与源泉税 報酬源泉税 社会保険料 その他 仮受金 未払消費税等	PEPS経費未払金 労働基準監督署 退職慰労金 その他経費	人件費・出版費用等	8,007,176 2,756,288			
			確定労働保険料	139,754			
			過年度・当年度	3,852,000			
			フューチャリズムワークス・リアルテック等	1,259,134			
			2,960,942				
			3月給与	2,587,706			
			3月通勤費	147,568			
			3月法定福利費	225,668			
			38,932,080				
			学術振興事業収入の前受分	38,932,080			
			会費収入の前受分	6,018,660			
			792,434				
			給与源泉税の預り分	15,069			
			報酬源泉税の預り分	579,956			
57,009							
140,400							
2,205,080							
2,018,200							
2018年大会NASA経費等 本郷税務署	2,018,200						
流動負債合計				61,997,572			
負債合計				61,997,572			
正味財産				92,167,134			

財務諸表に対する注記及び附属明細書

平成30年3月31日現在

「公益法人会計基準」（平成20年4月11日 平成21年10月16日改正 内閣府公益認定等委員会）を採用している。

1. 継続事業の前提に関する注記
該当なし

2. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法
該当なし

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法
該当なし

(3) 固定資産の減価償却の方法
什器備品 3年間の均等償却。
ソフトウェア 定額法、

(4) 引当金の計上基準
該当なし

(5) キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
該当なし

(6) 消費税等の会計処理
税込方式によっている

3. 会計方針の変更

本年度から、昨今の大会参加者数、発表論文数、参加学会数、並びに国際連携の推進等に鑑み、法人の管理運営の重要性が増していること等を考慮し、大会参加料の法人会計への配分比率5%を10%に改訂している

4. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	5,000,000	0	0	5,000,000
基本財産計	5,000,000	0	0	5,000,000
特定資産				
地球惑星科学に関わる学国学協会との連携推進	4,000,000	0	4,000,000	0
学生旅費補助推進資金	0	12,000,000	0	12,000,000
地球惑星科学振興西田賞	5,000,000	5,000,000	0	10,000,000
特定資産資産計	9,000,000	17,000,000	4,000,000	22,000,000
合計	14,000,000	17,000,000	4,000,000	27,000,000

5. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産からの充当額)	うち一般正味財産からの充当額	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	5,000,000		(5,000,000)	(0)
基本財産計	5,000,000	0	(5,000,000)	(0)
特定資産				
学生旅費補助推進資金	12,000,000	0	(12,000,000)	(0)
地球惑星科学振興西田賞	10,000,000	(10,000,000)		(0)
特定資産計	22,000,000	(10,000,000)	(12,000,000)	(0)
合計	27,000,000	(10,000,000)	(17,000,000)	(0)

6. 担保に供している資産
該当なし

7. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取 得 価 額	減 価 償 却 累 計	当 期 末 残 高
什 器 備 品	1,260,865	1,073,318	187,547
ソ フ ト ウ エ ア	44,851,459	25,834,823	19,016,636
合 計	46,112,324	26,908,141	19,204,183

8. 債権の債権金額、貸倒引当金の当期末残高及び当該債権の当期末残高
該当なし

9. 保証債務(債務保証を主たる目的事業としている場合を除く。)等の偶発債務
該当なし

10. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
該当なし

11. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	借対照上の記載
科学研究費補助金	日本学術振興会	1,466,956	42,100,000	42,938,260	628,696	指定正味財産
国際会議補助金	千葉県	0	7,000,000	7,000,000	0	
国際会議補助金	千葉市	0	5,000,000	5,000,000	0	
国際会議補助金	千葉コンベンションビル	0	2,000,000	2,000,000	0	
球惑星科学振興西田	西田篤弘	5,000,000	5,000,000	0	10,000,000	指定正味財産
	合計	6,466,956	61,100,000	56,938,260	10,628,696	

12. 基金及び代替基金の増減額及びその残高
該当なし

13. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

平成25年度科研費補助金	838,260
平成29年度科研費補助金	42,100,000
合計	42,938,260

14. 関連当事者との取引の内容
該当なし

15. キャッシュ・フロー計算書の資金の範囲及び重要な非資金取引
該当なし

16. 重要な後発事象
該当なし

17. その他公益法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産増減の状況を明らかにするために必要な事項

従来、就業規則において職員に関する退職金については特別な取り決めがなかったが、今般、就業規則(平成30年7月1日)の改訂が検討されることにより、過年度に属する職員の勤務期間の退職慰労金についても、支払いを行うとの方針が、理事会(平成30年3月27日開催)において審議されたことに鑑み、当年度において未払債務として認識することとし、過年度帰属分 3,084,000円、当年度帰属分768,000円の合計3,852,000円を未払金に計上している

附属明細書

1.基本財産及び特定資産の明細

基本財産及び特定資産については、財務諸表に対する注記5.に記載しており、内容の記載を省略する

2.引当金の明細

該当なし

監査報告書

平成 30 年 4 月 26 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）川 幡 穂 高 殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監事 鈴木 善和



私監事は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合第 7 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

(1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。

(2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

(1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 7 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。

(2) 事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。

(3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

監査報告書

平成 30 年 4 月 26 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）川 幡 穂 高 殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監事 北 里 

私監事は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 7 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 7 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

監査報告書

平成 30 年 4 月 26 日

公益社団法人日本地球惑星科学連合
代表理事（会長）川 幡 穂 高 殿

公益社団法人日本地球惑星科学連合
監事 氷見山 幸夫



私監事は、平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの公益社団法人日本地球惑星科学連合 第 7 期事業年度における会計及び業務の監査を行った。その結果につき次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿及び関係書類の閲覧等必要と認められる監査手続きを用いて財務諸表の適正性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及びその他の会議に出席し、理事から業務の報告を聴取し、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 正味財産増減計算書、貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、公益社団法人日本地球惑星科学連合の第 7 期事業年度の正味財産増減の状況及び同事業年度末日現在の財政状態を適正に示しているものと認めます。
- (2) 事業報告書の内容は、事実に従い、公益社団法人日本地球惑星科学連合の状況を正しく示しているものと認めます。
- (3) 理事の業務執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以上

第2号議案 役員（理事、監事）選任の件

(1) 役員候補者推薦委員会名簿

氏名	所属	備考
川幡穂高	東京大学	連合会長
齋藤文紀	島根大学	学協会長会議議長
高橋幸弘	北海道大学	セクションプレジデント(宇宙惑星科学)
蒲生俊敬	東京大学	セクションプレジデント(大気水圏科学)
奥村晃史	広島大学	セクションプレジデント(地球人間圏科学)
大谷栄治	東北大学	セクションプレジデント(固体地球科学)
遠藤一佳	東京大学	セクションプレジデント(地球生命科学)

(2) 理事候補者選挙実施日程

2017年12月13日 理事候補者選挙公示

12月21日 候補者受付開始

2018年1月11日 候補者受付締切

1月31日 投票受付開始

2月15日 投票受付締切（有効票：131票）

2月23日 選挙管理委員会による開票、役員候補者推薦委員会へ結果報告

3月26日 役員候補者推薦委員会

(3) 役員候補者推薦委員会議事録

日本地球惑星科学連合役員候補者推薦委員会 会議議事録

1. 開催日時：2018年3月26日（月）10：00～12：00
2. 開催場所：連合事務局会議室（〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル）
3. 出席委員：会長 川幡穂高（東京大学）
学協会長会議議長 齋藤文紀（島根大学）
次期セクションプレジデント
宇宙惑星科学 高橋幸弘（北海道大学）
大気水圏科学 蒲生俊敬（東京大学）
地球人間圏科学 奥村晃史（広島大学）
固体地球科学 大谷栄治（東北大学）
地球生命科学 遠藤一佳（東京大学）
(敬称略)

4. 議事

開始予定時刻となったため、議長が議長席に着き、会議の開始を宣言した。以下議事に入った。

議事1. 関連規則の確認

定款、役員候補者推薦委員会規則、理事候補者選挙規則および理事候補者実施細則等、関連規則を確認した。

議事2. 理事候補の選出

選挙管理委員会より提出された理事候補者選挙の選挙結果を元に、理事候補者を選出した。選挙結果によれば17位から20位の候補者が得票同数、また21位22位の候補者が得票同数となるが、理事候補者選挙実施細則第6条に基づいてそれぞれ年齢の若い者から順に上位とし順位が確定されることを確認した。

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律」第五条十一および定款第16条に定められた、他の同一の団体の理事又は使用人である者についての確認を行った。選挙結果上位20名のうち東京大学所属の候補は7名である。このうち得票数が少ない19位の候補者を候補リストから除外した。次点である21位の候補者を検討し、理事候補としてふさわしい候補でありまた他に規則・バランス等に支障がないことから、候補者とした。

候補者の登録区分についても確認した。(候補者上位20名登録区分：宇宙惑星科学4名、大気水圏科学3名、固体地球科学8名、地球人間圏2名、地球生命科学2名、地球惑星学総合1名)

候補者のジェンダーについても確認し、現在の理事における女性数と同数である3名が候補者リスト含まれていることを確認した。

以上のように選挙結果の上位20名を候補者とするに問題がないことを確認した。したがって、別紙資料の通り、理事候補者選挙結果の上位20名を理事候補者として定時社員総会へ提出することを全会一致で承認した。

議事 3. 監事候補の選出

継続性を考え、現監事を中心に推薦することとした。ただし北里監事は事前に継続就任を辞退する連絡があったため、新規に1名を選考した。過去の役員経験者、セクションプレジデント経験者等から学識・経験を踏まえ複数名を検討したが、加藤照之氏を推薦することを全会一致で承認した。したがって、継続候補2名（鈴木善和監事、氷見山幸夫監事）と合わせて3名を監事候補者として定時社員総会へ提出することを全会一致で承認した。

議長は以上をもってすべての議事を終了した旨を述べ、閉会を宣した。(12時00分)

以上の議事の要領及び結果を明確にするため、本議事録を作成した。

以上

参考：

理事候補者選挙実施細則

(順位の決定)

第6条 選挙の結果、得票の多い者から順位を付け、得票同数の場合は、年齢の若い者を上位とする。

公益社団法人日本地球惑星科学連合定款

(役員を選任) 第16条

2 他の同一の団体の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にある者(公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行令第5条各号に掲げられた者をいう。)である理事の合計数は、理事の総数の3分の1を超えてはならない。監事についても、同様とする。

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律

(公益認定の基準)

第五条十一 他の同一の団体(公益法人又はこれに準ずるものとして政令で定めるものを除く。)の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にあるものとして政令で定める者である理事の合計数が理事の総数の三分の一を超えないものであること。監事についても、同様とする。

(4)理事候補者選挙 投票結果

得票順	氏名	所属	票数
1	田近 英一	東京大学	89票
2	川幡 穂高	東京大学 大気海洋研究所	87票
3	ウォリス サイモン	東京大学	79票
4	木村 学	東京海洋大学	78票
5	古村 孝志	東京大学 地震研究所	70票
6	中村 正人	宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所	70票
7	浜野 洋三	無し	69票
8	阿部 なつ江	海洋研究開発機構	65票
9	西 弘嗣	東北大学学術資源研究公開センター	64票
10	日比谷 紀之	東京大学大学院理学系研究科	62票
11	村山 泰啓	情報通信研究機構	59票
12	松本 淳	首都大学東京	58票
13	成瀬 元	京都大学	57票
14	倉本 圭	北海道大学	53票
15	中村 昭子	神戸大学	52票
16	道林 克禎	静岡大学	49票
17	井出 哲	東京大学大学院理学系研究科	44票
18	河宮 未知生	海洋研究開発機構	44票
19	佐藤 正樹	東京大学大気海洋研究所	44票
20	市川 洋	無し	44票
21	小口 千明	埼玉大学	43票
22	掛川 武	東北大学大学院理学研究科	43票
23	鈴木 勝彦	海洋研究開発機構	39票
24	小口 高	東京大学	39票
25	吉田 尚弘	東京工業大学	38票
26	近藤 昭彦	千葉大学環境リモートセンシング研究センター	36票
27	加藤 雄人	東北大学	30票

(5)役員候補者推薦一覧

2018年3月26日役員候補者推薦委員会

理事候補者推薦一覧(20名)

氏名	所属	抱負もしくは推薦文
阿部 なつ江	海洋研究開発機構	JpGUの更なる発展のためには、女性や若手理事を含めた多様な意見を束ねた執行部運営がとても大切である。阿部なつ江代議員は、ダイバーシティ推進委員会のメンバーとして日本地球惑星科学連合に貢献してきた実績から理事に推薦するものである。
市川 洋	無し	JpGUからの委員の一人として2015年12月以降現在まで、理数系学会教育問題連絡会でも活躍中です。物化生等との科学教育の連携を進めるためにもJpGU理事として活躍して頂きたい、ここに推薦します。
井出 哲	東京大学大学院理学系研究科	JpGUの健全な運営に貢献したいと思います
ウォリス サイモン	東京大学	私はJpGU・AGU・日本地質学会などの国際化推進を担当する委員会のメンバーと務めるなど学会の国際交流に関する経験があり、その経験を生かしてJpGUの国際化に貢献したい。
小口 千明	埼玉大学	地球科学分野の研究者育成および支援に関する問題、とくに任期付雇用、キャリア形成、介護、ワークライフバランス等について、国際的・分野横断的な組織などとも連携し、改善策を考えていきたいと思っています。
川幡 穂高	東京大学 大気海洋研究所	世界の一極を担える電子ジャーナルPEPSの確立、AGUとの共同開催も含めた年会の充実により、日本の地球惑星科学の世界への情報発信を促進し、この分野の新しいパラダイムに到達すべく努力したいと思います。
河宮 未知生	海洋研究開発機構	地球規模気候変化予測モデルの開発、応用を専門にしています。地球環境問題における地球惑星科学の貢献を社会に発信することを通じ、基礎・応用科学としての分野の発展とJpGUの国際化に尽力したいと考えています。
木村 学	東京海洋大学	来たる2年間は、2020に予定されているJpGU-AGUの第2回共同大会へ向けて改めてのホップ・ステップを計る時期です。これまでの経験を生かして微力ながらJpGUの発展に力を尽くしたいと思います
倉本 圭	北海道大学	研究教育ネットワークの形成を通じた地球惑星科学の展開に貢献したいと思います。
田近 英一	東京大学	21世紀における地球惑星科学分野の発展の方向性を見据え、学術的活動はもちろんのこと、次世代を担う人材の教育と育成、広報普及活動による社会的な理解と支持の向上、そしてJpGUの組織強化など、微力ながら尽力いたします。
中村 正人	宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所	これまでの連合における経験を活かし、日本から生まれた国際組織としての地球惑星科学連合の発展に理事として尽くします。
中村 昭子	神戸大学	地球惑星科学分野の研究活動の拡がりや深化、それを担う次世代の活動の基盤の整備や維持のために微力ながら貢献できればと考えます。
成瀬 元	京都大学	連合の顕彰制度の確立と発展に貢献したいと考えています。専門分野の堆積学は固体地球と地球人間圏セクションの境界領域ですし、世代的にも若手とベテランの中間ですので、複数の意味で境界領域の橋渡しの存在となれるよう努力したいと思います。

西 弘嗣	東北大学学術資源研究 公開センター	これまで総務、教育の関連で連合の運営に関与してきました。今後もその運営において多くの困難な点が克服できるように地球惑星連合の発展のため全力を尽くしたいと思います。
浜野 洋三	無し	JpGUの事業はここ数年で大幅に拡大し、連谷大会の参加者も急激に増加してきました。しかし、大会運営を中心とした事業を支える事務局体制の整備が遅れています。今期は、運営のための基盤体制を整備し、多くの大会参加者が満足できる、着実な安定したJpGUの実現のために働きたいと思いをします。
日比谷 紀之	東京大学大学院理学系 研究科	日本地球惑星科学連合の理事を務め、2016年連合大会委員長としてAGU Joint Session導入による国際化推進、大気水圏科学セクション参加者の飛躍的増加によるJpGU活性化に貢献した日比谷氏を理事に推薦します。
古村 孝志	東京大学 地震研究所	理事会活動を通して日本地球惑星科学連合の組織を一層強化し、国内関連学協会及び国際コミュニティとの連携の下、地球惑星科学の発展に貢献したい。
松本 淳	首都大学東京	現代の地球や地域の環境問題の解決のためには、人間圏を含めた地球の理解を進展させる必要があります。過去の理事やPEPSセクション編集委員長等での経験を踏まえ、連合のさらなる国際的発展に微力を尽くします。
道林 克禎	静岡大学	JpGUが日本の地球惑星科学分野を発展させる場として今まで以上に認知され、JpGU大会が研究・教育・産業の交流の場となるように広報や普及活動等に尽力していきます。
村山 泰啓	情報通信研究機構	連合での情報担当理事、グローバル戦略委員会の経験を生かし、現在の学術会議連携会員、ICSU-WDS国際委員など他の組織の役割も生かしながら、学術コミュニティの成長、発展に貢献できればと思います。

50音順

監事候補者推薦一覧(3名)

加藤 照之	神奈川県温泉地学研究所
鈴木善和	プラタナス法律事務所
氷見山幸夫	北海道教育大学名誉教授

50音順

第3号議案 日本地球惑星科学連合定款第16条4項改訂の件

<p>(新)</p> <p>(役員を選任)</p> <p>第14条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。 2 代表理事及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。 3 前項で選任された代表理事は、当然に会長に就任する。 4 理事会は、その決議によって、第2項で選任された業務執行理事より副会長、専務理事及び常務理事を選定することができる。この場合、副会長は<u>4</u>名以内、専務理事は1名、常務理事は5名以内とする。</p>	<p>(旧)</p> <p>(役員を選任)</p> <p>第14条 理事及び監事は、社員総会の決議によって選任する。 2 代表理事及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。 3 前項で選任された代表理事は、当然に会長に就任する。 4 理事会は、その決議によって、第2項で選任された業務執行理事より副会長、専務理事及び常務理事を選定することができる。この場合、副会長は<u>3</u>名以内、専務理事は1名、常務理事は5名以内とする。</p>
--	--